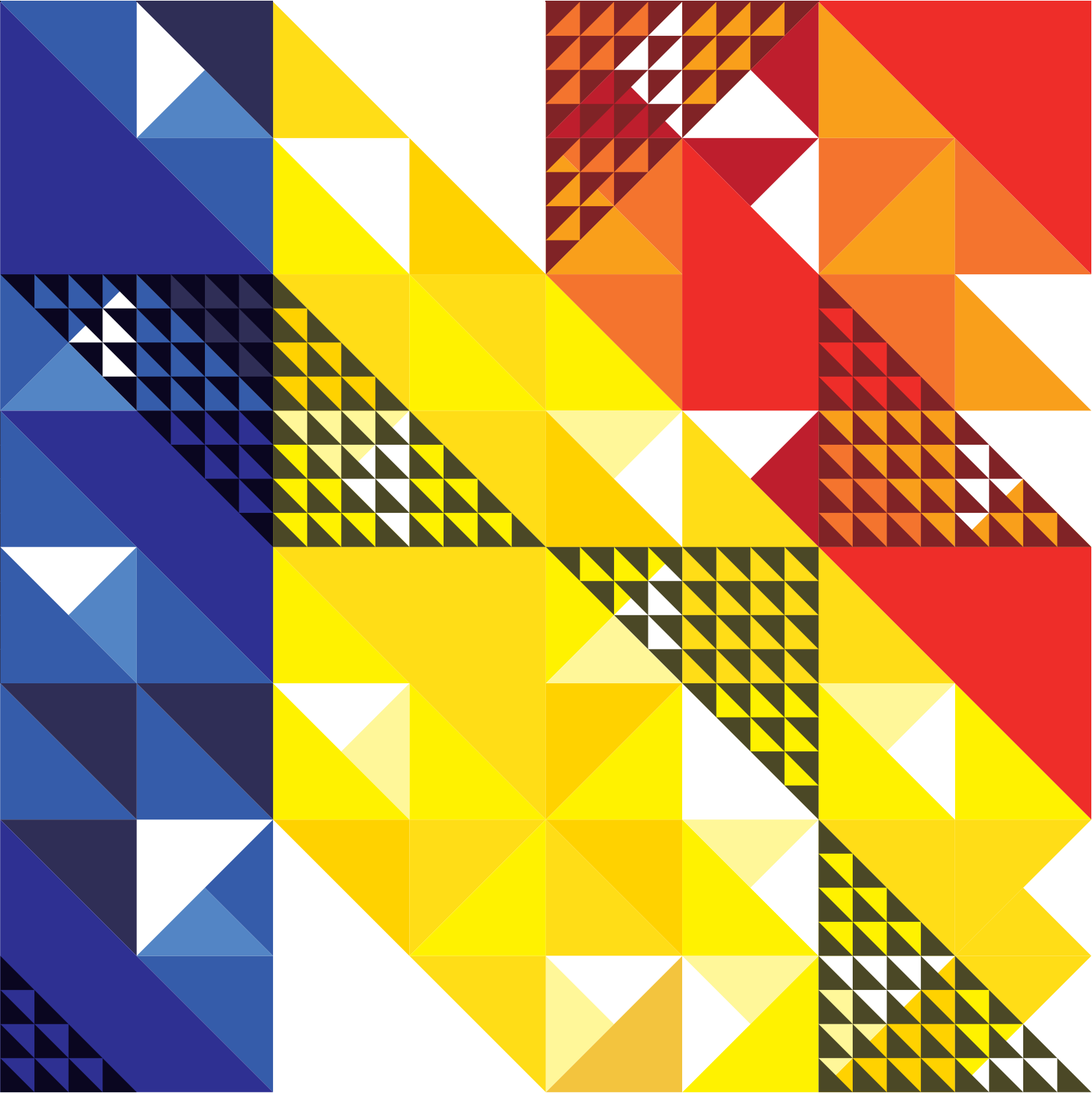




学生タウンなごや推進ビジョン

平成28年3月 名古屋市



「なごや」とは

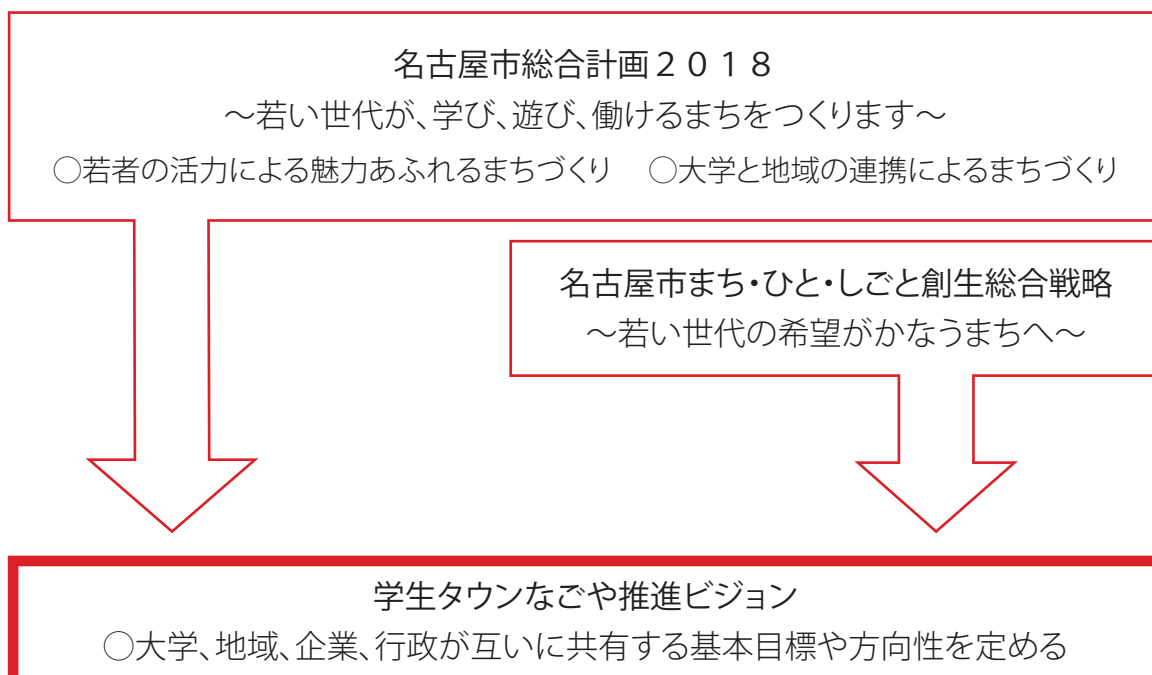
名古屋市内へ通学する学生（大学生や短期大学生など）の居住範囲や、名古屋市内から通学する学生の通学範囲は、名古屋市内にとどまらず愛知県全域、岐阜県と三重県の一部におよびます。そこで、愛知県全域、岐阜県と三重県の一部を含めた地域を「なごや」とします。

1-1 策定の趣旨

- 少子化の進行や都市間競争の激化による圏域外への流出などにより、今後学生数が減少することが懸念されています。学生数の減少は、経済規模の縮小や都市の活力や魅力の低下を招く恐れがあります。
- こうした情勢のもと、大学（短期大学などを含む）、地域、企業、行政が連携し、長期的な展望をもって、学生から選ばれるまちづくりをすすめていく必要性が高まっています。
- 学生タウンなごや推進ビジョンは、「若い世代が、学び、遊び、働けるまち」を実現し、学生から選ばれるまちづくりをすすめるため、大学、地域、企業、行政が互いに共有し一体となって取り組む基本目標や、その方向性を定めるものです。

1-2 位置づけ

- 学生タウンなごや推進ビジョンは、名古屋市総合計画2018の着実な推進を支えるとともに、名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる「若い世代の希望がかなうまち」の実現に向け、取りまとめるものです。
- 名古屋市で活動する学生を対象としますが、学生や大学の活動が市域を越え行われていることをふまえ、より広域的な視点で取りまとめます。



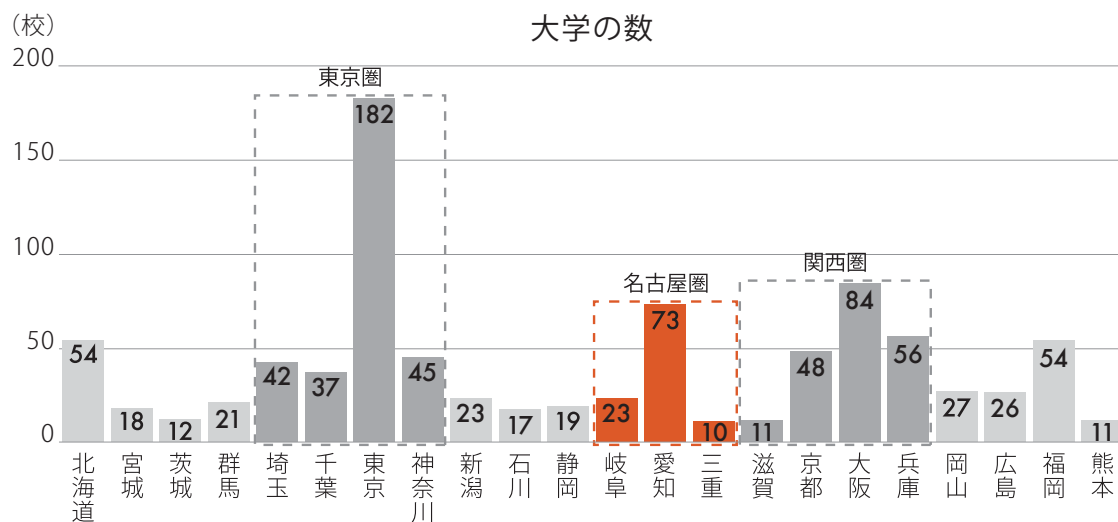
2-1 データから見た現状

学びの場所、働く場所、住み続ける場所として見た現状を整理します。

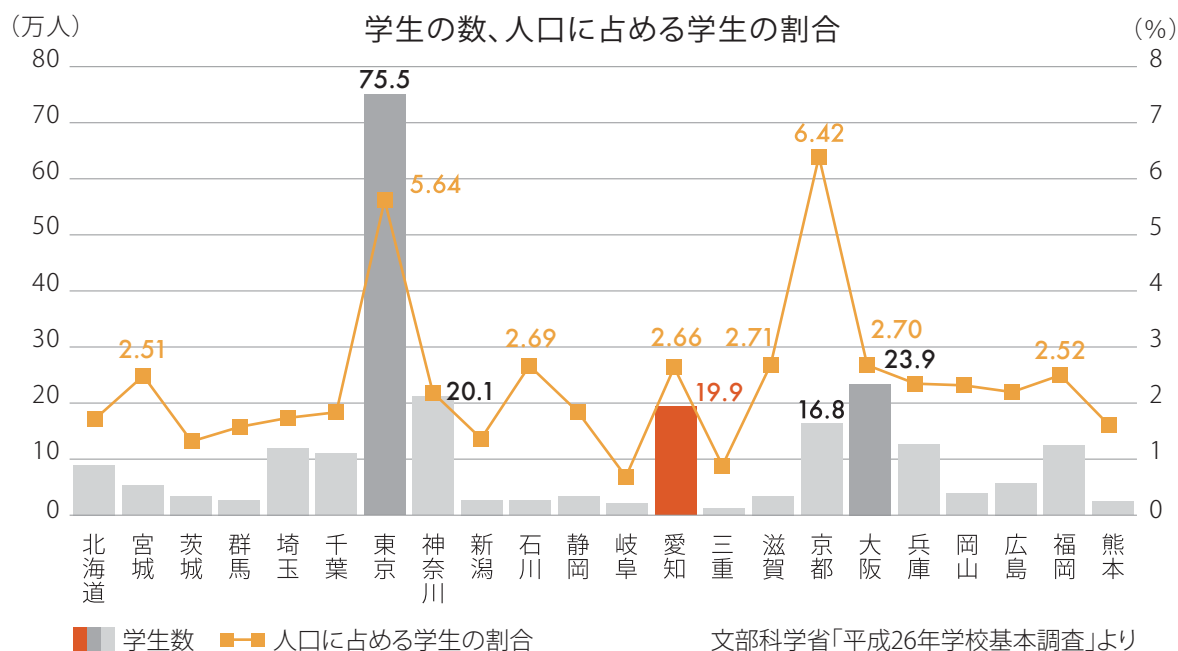
学びの場所として

大学・学生が多く集まる

- 名古屋圏（愛知、岐阜、三重）には、東京圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）、関西圏（大阪、京都、兵庫、滋賀）に続き、多くの大学が集積しています。人口に占める学生の割合も、京都府や東京都ほどではないものの、全国的に見て高くなっています。



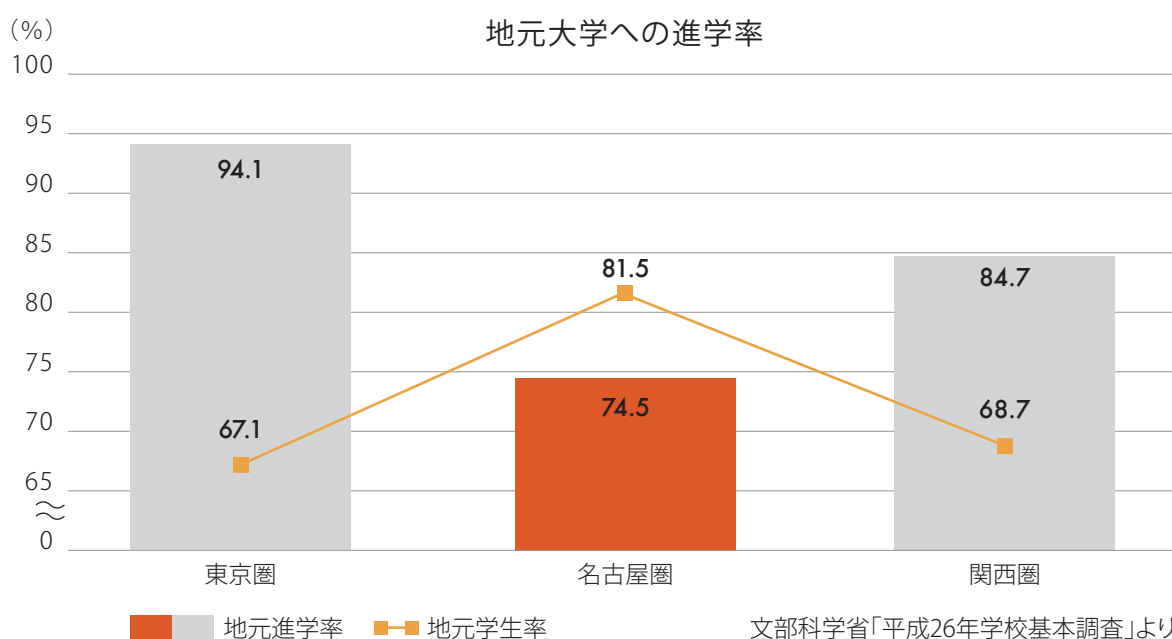
文部科学省「平成26年学校基本調査」より



文部科学省「平成26年学校基本調査」より

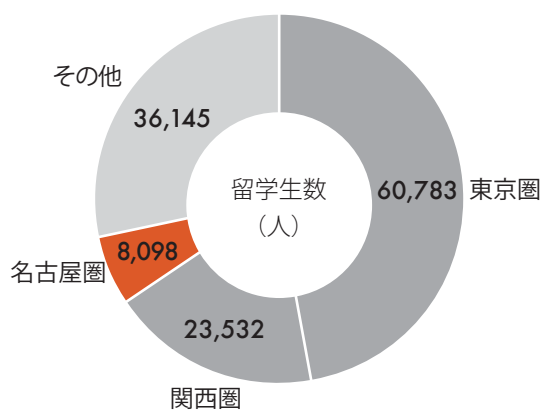
大学における地元高校を卒業した学生の割合が高い

- 名古屋圏における高校を卒業した学生のうち、地元大学に進学した学生の割合（地元進学率）は74.5%と、東京圏や関西圏に比べて低くなっています。
- 一方、名古屋圏における大学に通う学生のうち、地元高校を卒業した学生の割合（地元学生率）は81.5%と、東京圏や関西圏と比べて高くなっています。

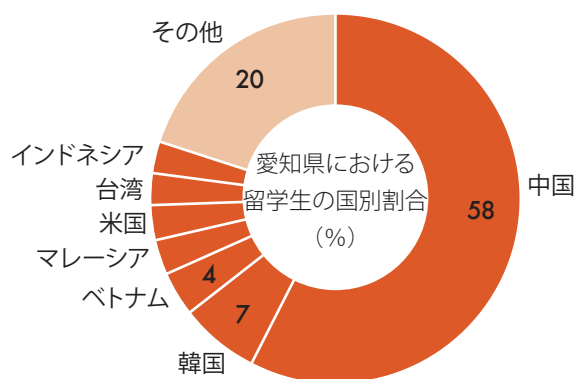


アジア圏からの留学生の割合が高い

- 中国をはじめとするアジア圏から、多くの留学生在が訪れ学んでいます。出身国で見ると、中国が6割近くを占め、韓国、ベトナムの順となっています。



独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)
「平成26年度外国人留学生在籍状況調査」より

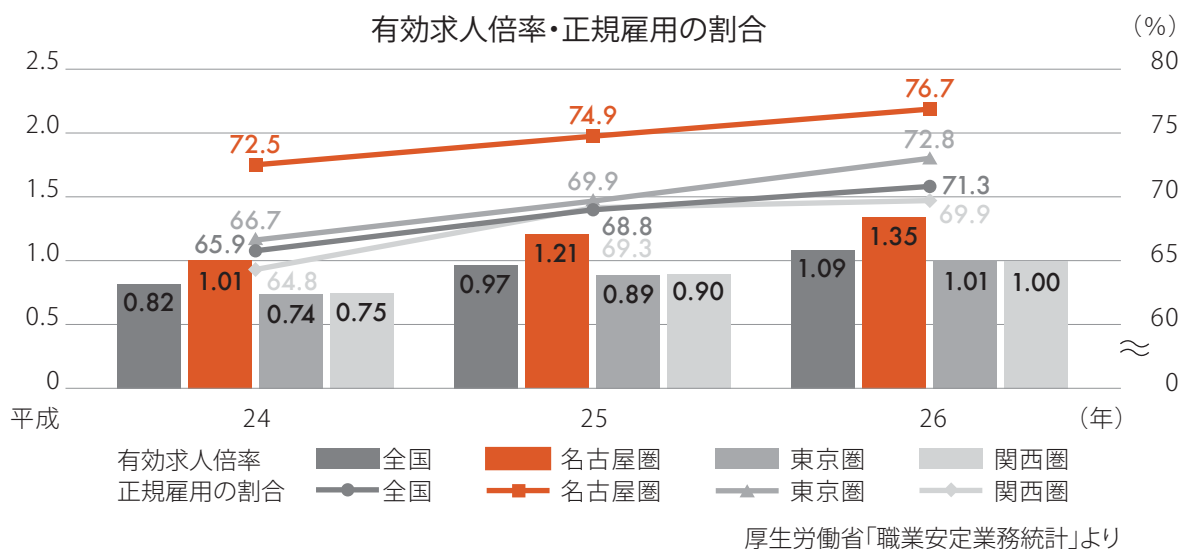


愛知県留学生交流推進協議会
「平成26年愛知県留学生数など調査」より

働く場所として

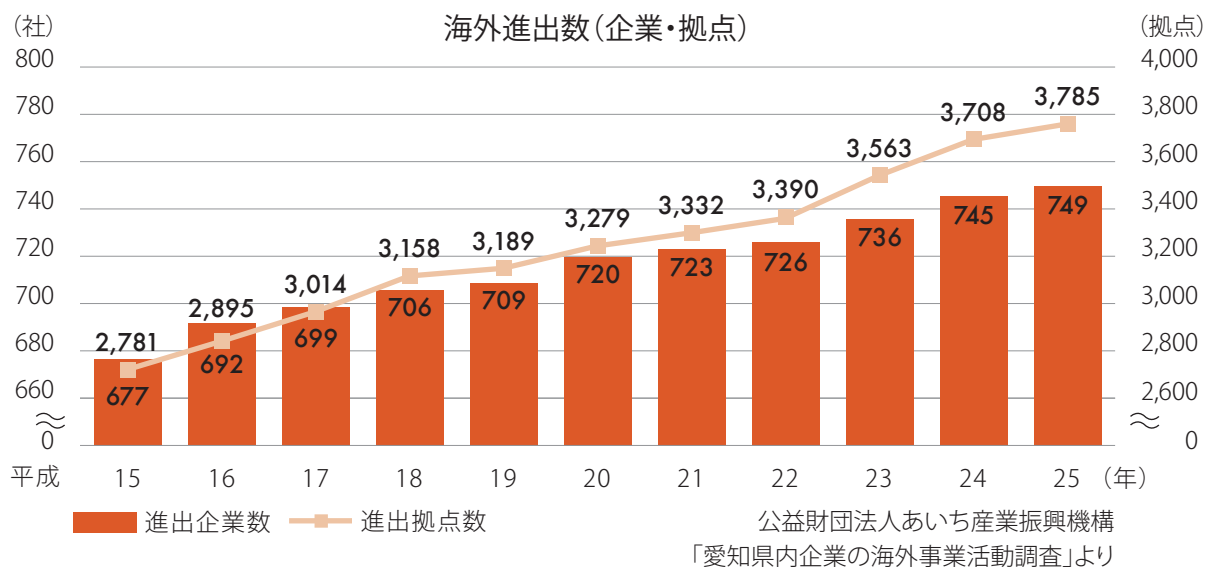
企業の求人倍率が高い・正規雇用の割合が高い

- 名古屋圏における有効求人倍率は、いずれの年度においても全国平均を上回り、東京圏や関西圏に比べて高い値となっています。また、名古屋圏における大学卒業者に占める正規雇用の割合も高く、恵まれた労働環境が整っています。



企業の海外進出がすすむ

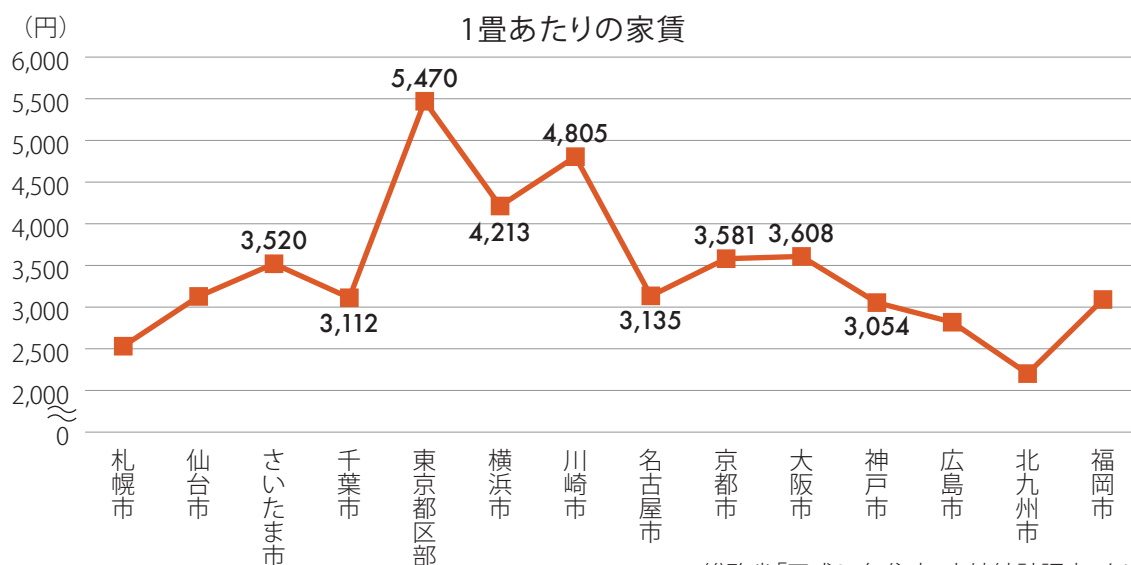
- 愛知県における企業の海外進出は、過去10年、右肩上がりに増えています。進出拠点数は、過去10年間で約1,000拠点増加しています。



住み続ける場所として

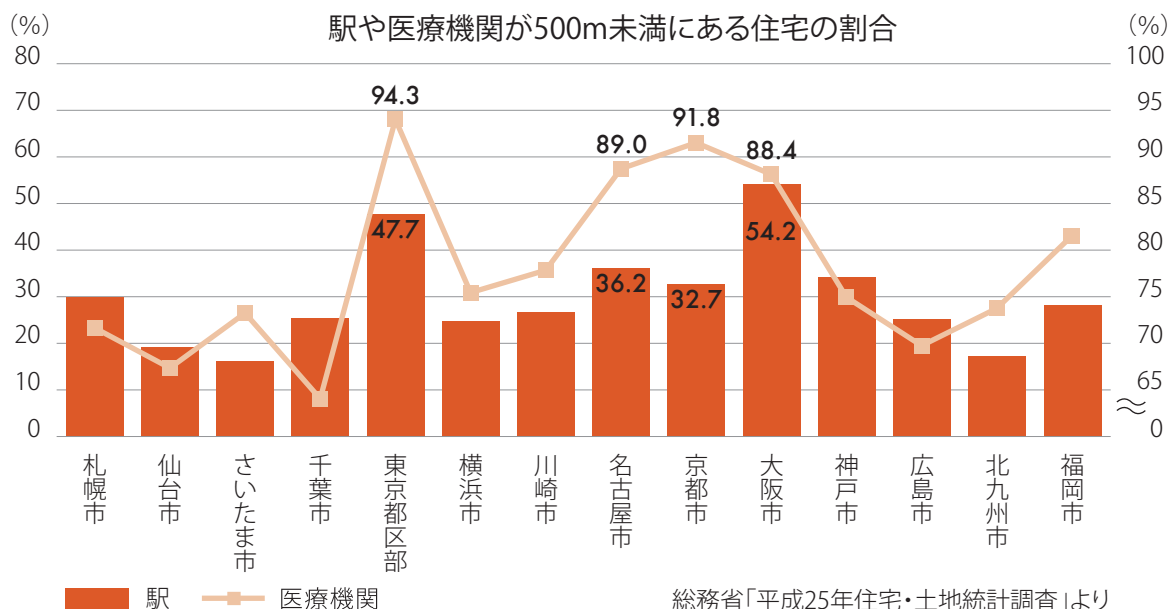
家賃が低廉

- 名古屋市における家賃は、東京都区部や大阪市に比べて低くなっています。名古屋市の家賃は、東京都区部の家賃の約6割弱に過ぎません。



駅や医療機関が近くにある

- 名古屋市における駅や医療機関までの距離が500m未満の住宅が占める割合は、それぞれ36%、89%と、東京都区部などにはおよばないものの、他の政令市に比べて高くなっています。



2-2 学生から見た現状

学生ヒアリングをもとに、学生から見た現状を整理します。

実施状況

名古屋市内の大学に通う大学生(計27人)に対し、グループヒアリングを実施しました。

ヒアリング結果から

学びの場所として	● なごや以外の学生に知られていない。 ・大学の知名度が低い。 ● 難関大学が少ない。 ・自分の学力にあった私立大学がない。 ● (地元の人ばかりで) なごやの大学は閉鎖的。 ・一人暮らしをする時、少し心配だった。
働く場所として	● 工学部学生の就職先が豊富。 ● (東京に比べて) 就職の選択肢が限られている。 ・特にマスメディア関連は選択肢が少ない。
住み続ける場所として	● 東京に比べて家賃が安い。 ● コンパクトで動きやすい。 ● 適度に都会で生活しやすい。 ・いい感じに都会。東京、大阪はごちゃごちゃしている。 ・都会だけど緑が多い。 ● 公共交通機関が充実している。 ● 学生が行きたくなる場所が少ない。 ・遊ぶ場所があまりない。名駅・栄ぐらい。

ナゴ校（4－2 参照）の学生が、質問項目を作成し調査したアンケートの結果をもとに、学生から見た現状を整理します。

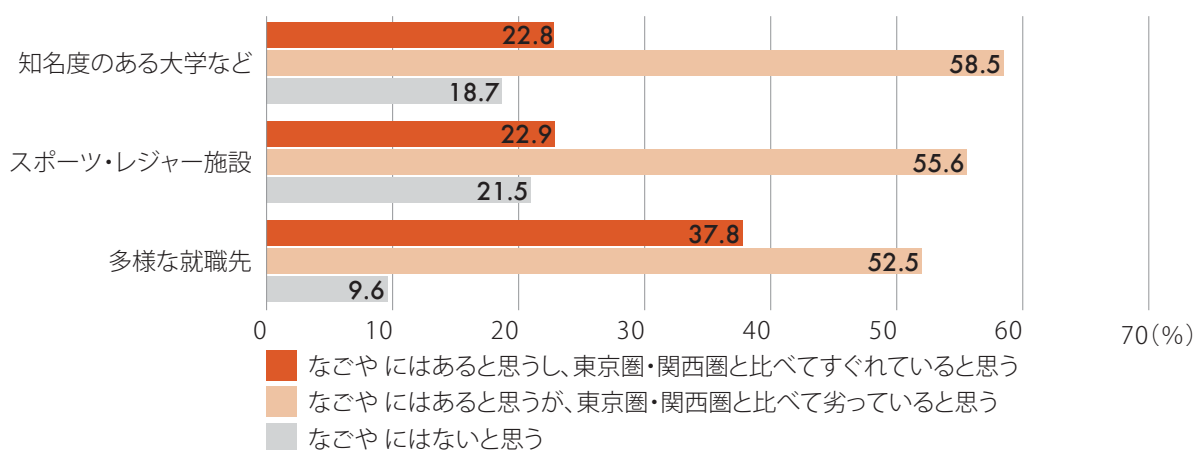
実施状況

大学など（大学・短期大学・専門学校・大学院）で学ぶ全国の学生を対象にアンケートを実施し、823名の学生から回答がありました。

アンケート結果から

東京圏、関西圏と比べてすぐれていること、劣っていること

- 「知名度のある大学など」、「スポーツ・レジャー施設」、「多様な就職先」において、東京圏や関西圏と比べてなごやが劣っていると思う割合が高くなっています。



改善されるとよいと思うところ

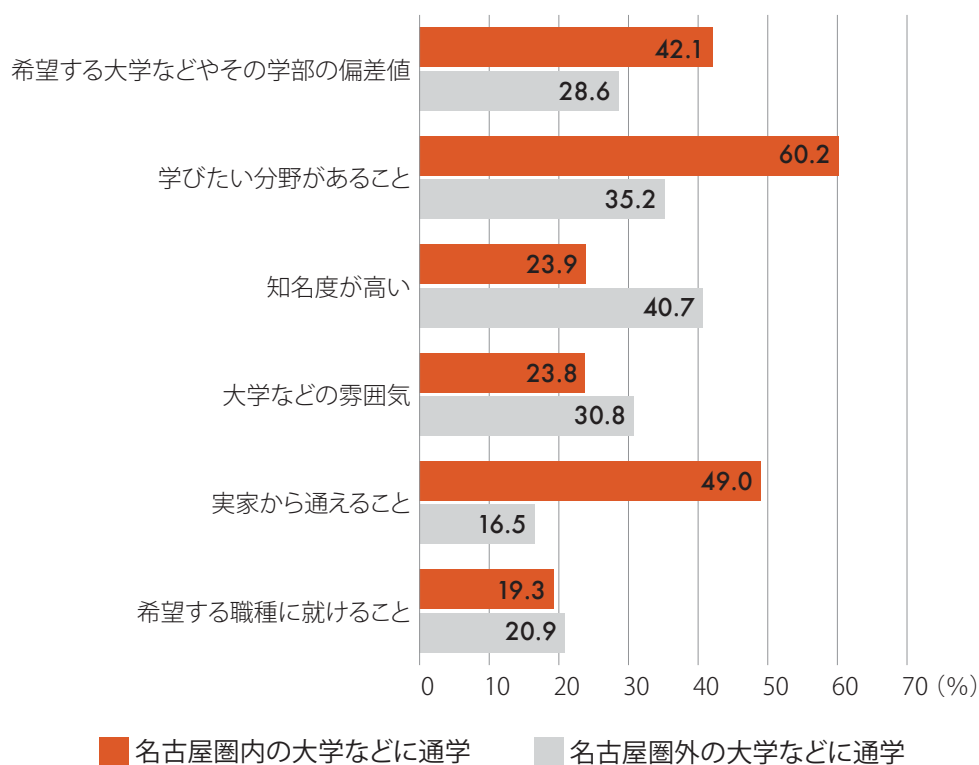
学びの場所として	● 学生の結びつきが弱いように感じるので、学生が自由に利用でき、多方面で活動している学生同士がつながる場があるとよい。
住み続ける場所として	● 観光や食べ物など、いいものが揃っているものの、それらの魅力を発信できていない気がするので、全国、全世界へ発信した方がよい。 ● 東京や大阪のように突出した魅力（テーマパークなど）がほしい。 ● 外国人が興味を持つような日本を感じられるまちにしてほしい。 ● 運転マナーを改善してほしい。

【トピックス】学生アンケートからわかる大学選びの現状

ここでは、前述のナゴ校生によるアンケートをもとに、学生が大学などを選ぶ際に重要視するポイントや、参考にする意見などの現状を整理します。

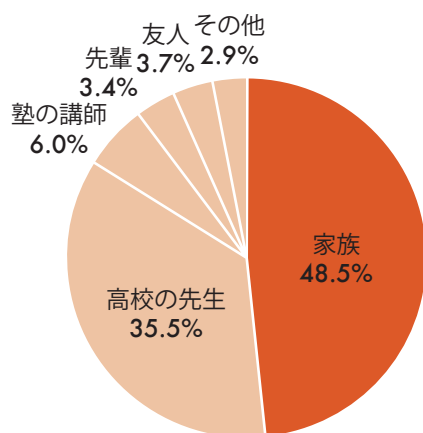
大学などを選んだ際に重要視したポイント

- 大学などの選択で重要視したポイントとしては、「学びたい分野があること」が一番高い割合となっています。また、名古屋圏内の大学などに通学する学生は「実家から通えること」を、一方、名古屋圏外の大学などに通学する学生は「大学の知名度」を重要視する割合が高くなっています。



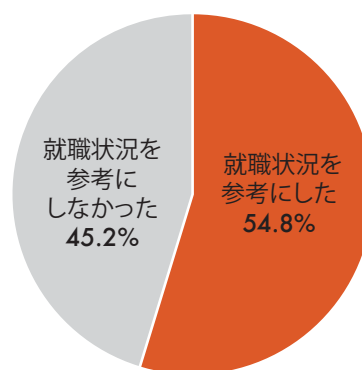
大学などを選ぶ際、^{だれ}誰の意見をもっとも参考にしたか

- 大学などの選択については、約5割の学生が家族の意見を参考にしています。



大学などの就職状況を参考にした上で大学などを選んだか

- 大学などの選択については、約5割の学生が就職状況（就職率、就職先など）を参考にしています。



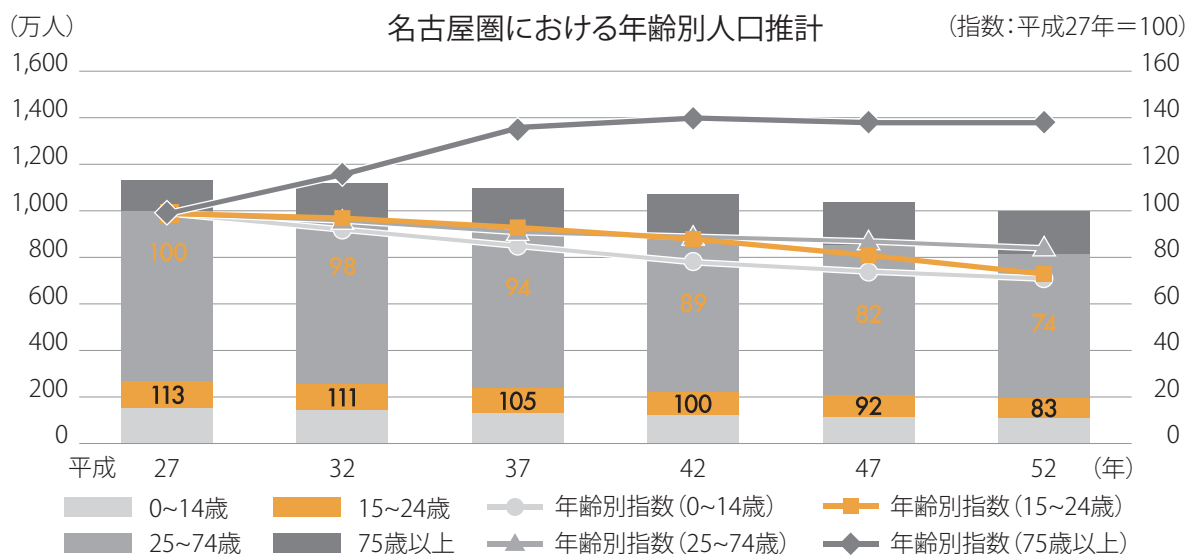
大学などを選ぶ際に情報としてどのようなものがほしかったか

大学に関する情報	● 大学生の「生の声」 ・高校生と大学生の交流の場 ● 授業やキャンパスの様子 ・授業やキャンパスの様子がわかる映像 ・より豊富な体験授業 ● 他大学との違い ・その大学でしかできない授業やイベントなどの情報
就職に関する情報	● 大学での就活サポートに関する情報 ● 大学を卒業した学生の就職先と体験談 ● 学内での資格取得に関する情報
生活に関する情報	● 学生の1週間のスケジュール ● 交通アクセス、大学周辺の飲食店などの情報、家賃など大学周辺で一人暮らしをする上で役立つ情報

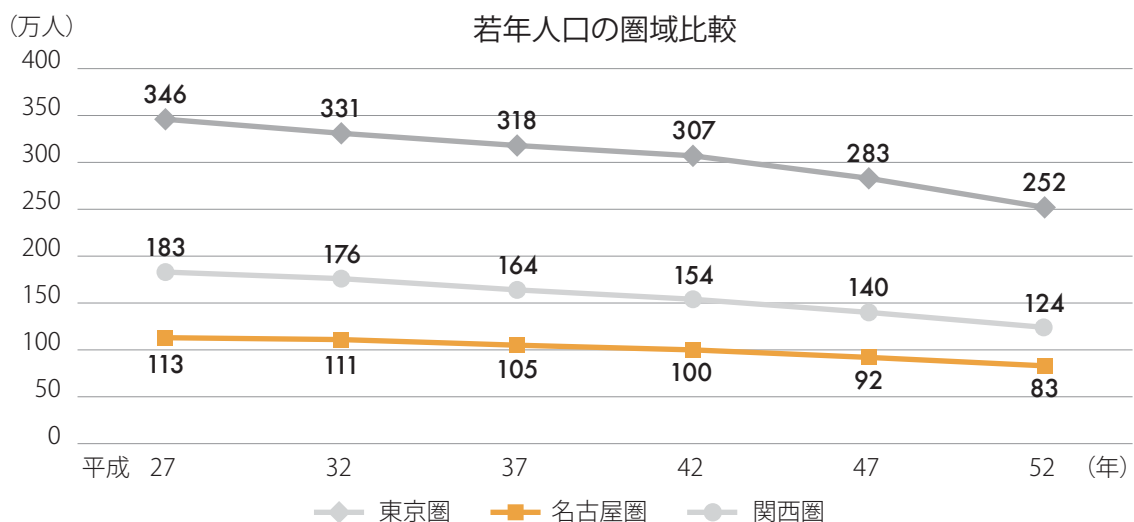
3-1 若者の減少

若年人口の減少

- 名古屋圏における若年人口（15歳以上24歳未満人口）は、今後大幅に減少します。平成27年を100とすれば、25年後の平成52年には74と、約3割（30万人）の減少が見込まれます。
- この傾向は、名古屋圏に限らず、東京圏や関西圏においても同じ状況で、今後25年間で東京圏では94万人、関西圏では59万人減少すると予測されています。



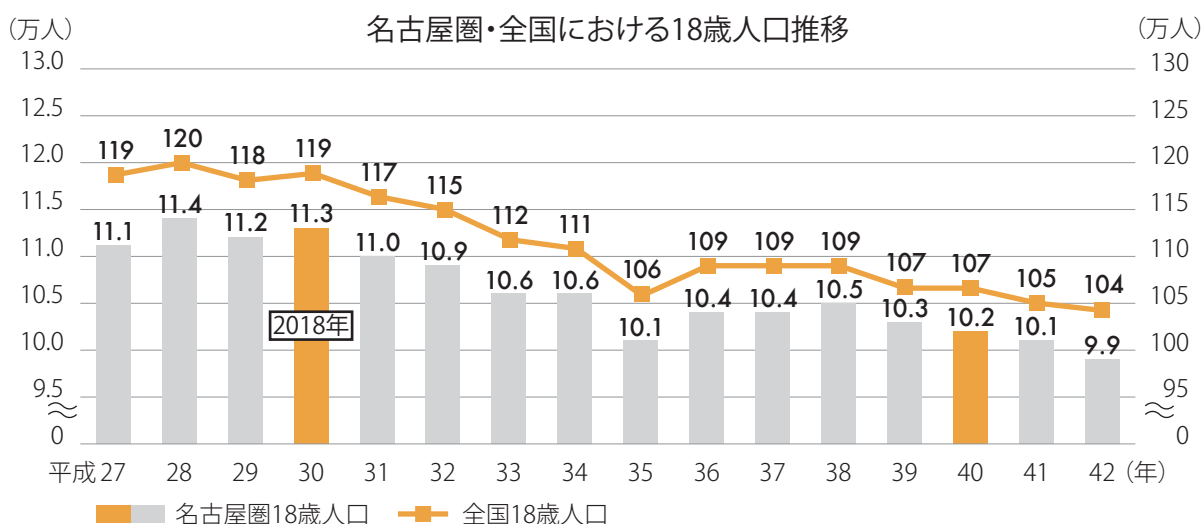
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(中位推計)より



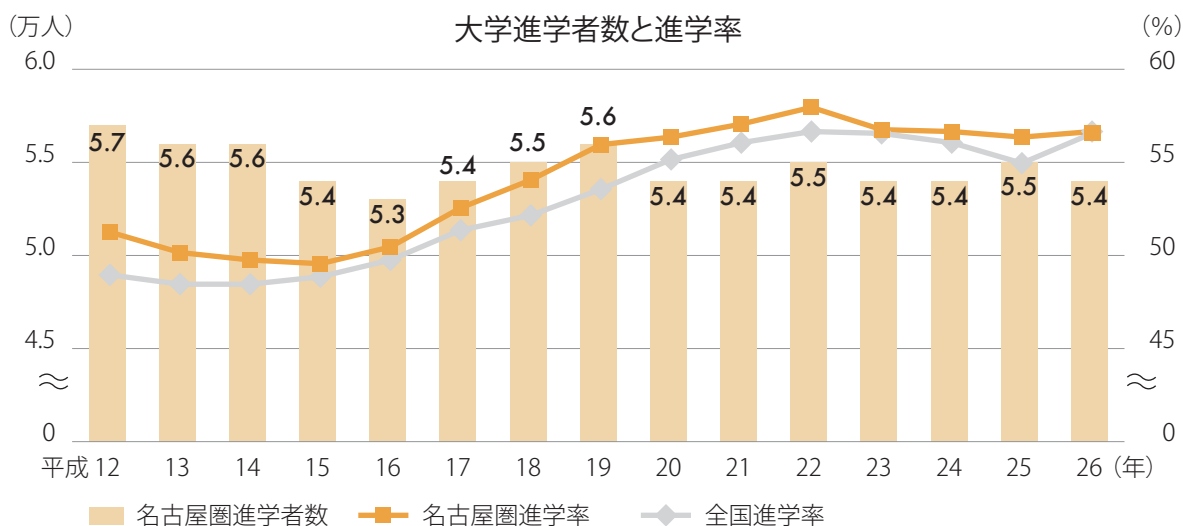
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(中位推計)より

2018年問題の到来

- 名古屋圏における18歳人口は、全国同様、平成30(2018)年を境に減少に転じます。全国ほどでないものの、平成40年には10.2万人と、平成27年現在に比べ、18歳人口が約1万人減少するとされています。
- 大学への進学率は、すでに頭打ちの状態であり、大学全入時代であることに鑑みると、これ以上の進学率の上昇は期待できない状況です。
- 進学率の上昇が人口減少の影響を打ち消してきたこれまでとは異なり、今後の人口減少は、名古屋圏の学生数に大きな変化をもたらす恐れがあります。



(備考) 18歳人口は、各年の18年前における出生数



文部科学省「学校基本調査」より

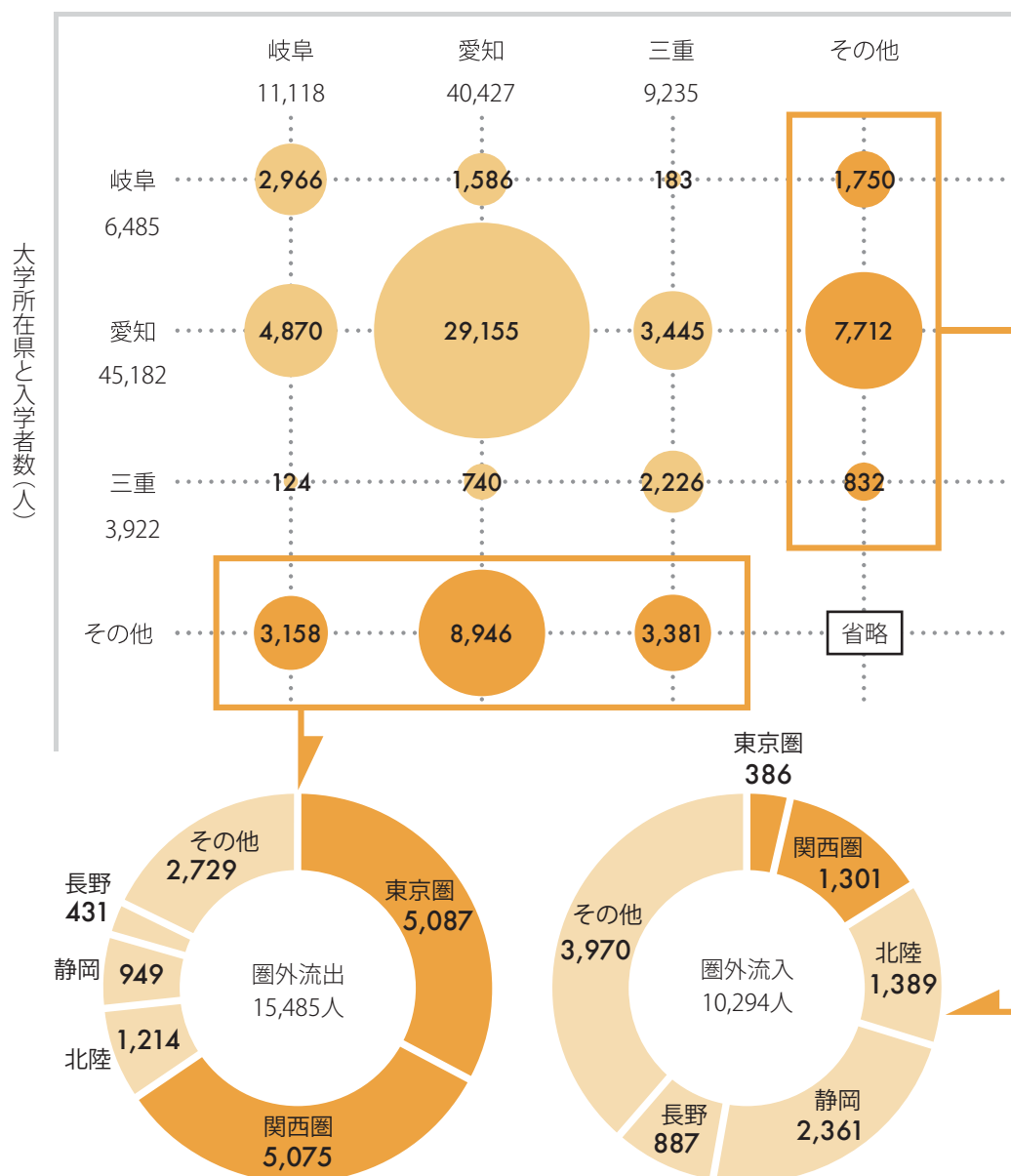
3-2 学生の圏外流出

東京圏、関西圏への学生の流出

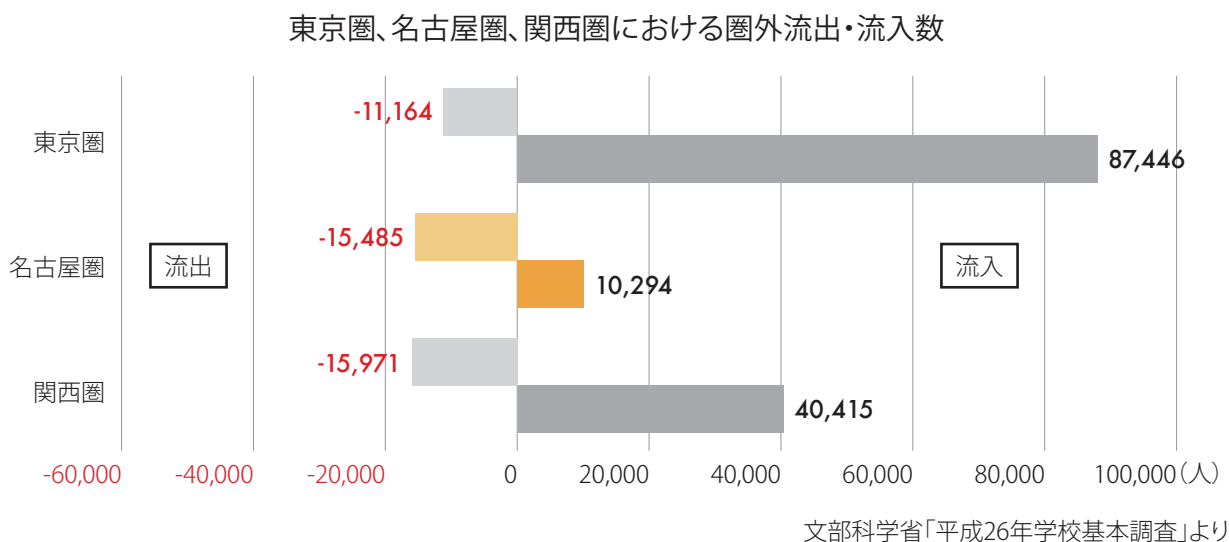
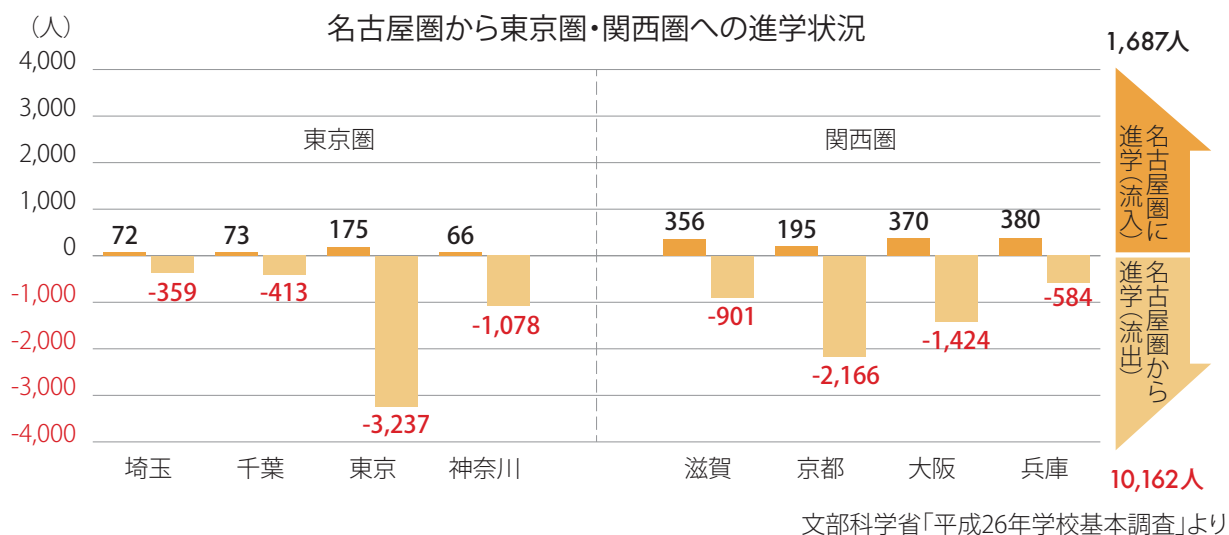
- 名古屋圏出身の学生のうち、名古屋圏以外の大学に進学した学生は15,485人、一方、名古屋圏以外から名古屋圏の大学に進学した学生は10,294人です。
- 名古屋圏から名古屋圏以外の大学に進学（流出）した学生の進学先を見ると、約3分の2が東京圏または関西圏となっています。

出身高校所在県別大学進学状況

出身高校所在県と卒業生数（人）



- 東京圏、関西圏に限って見ると、名古屋圏から進学（流出）した学生が10,162人であるのに対し、名古屋圏に進学（流入）してきた学生は1,687人に過ぎません。
- 18歳人口の減少にともなう都市間競争の激化により、東京圏や関西圏への学生の流出は、今後ますます増加する恐れがあります。



4-1 大学における地域連携の取り組み

- 大学における教育研究の成果を、広く社会に提供することが求められるようになったこともあり、近年、地域連携室や地域連携センターを大学独自で設置したり、行政と地域連携にかかる協定を締結したりする大学が増えてきました。
- 名古屋市内においても、医療・福祉などの専門課程を実学として学ぶ機会ととらえて地域の課題解決をはかったり、地元商店街との連携によりまちの活性化に取り組んだりしています。

名古屋市と協定を締結した例

大学名	協定内容
愛知大学	国際交流の促進、多文化共生、生涯学習など
愛知学院大学	生涯学習、商店街の活性化など
愛知東邦大学	まちづくり、防災、福祉、生涯学習など
金城学院大学	まちづくり、文化・芸術など
同朋大学	
名古屋音楽大学	まちづくり、社会福祉、地域防災など
名古屋造形大学	
名古屋学院大学	商店街の振興、観光の推進、まちづくりなど
名古屋市立大学	医療、福祉、生涯学習など
名古屋文理大学 短期大学部	健康づくり、地域防災、生涯学習など
名城大学	地域防災、まちづくり、生涯学習など

取り組み事例

地域と育む未来医療人「なごやかモデル」^{はぐく}

(文部科学省：未来医療研究人材養成拠点形成事業)

- 名古屋市立大学、名古屋学院大学、名古屋工業大学が連携し、鳴子地区で、少子化・高齢化にともなう保険・医療・福祉についてのさまざまな課題に取り組んでいます。
- 学生や若い医師などが、高齢者が住み慣れた地域で暮らせるコミュニティづくりに取り組み、超高齢化社会に対応できる総合診療医などを養成しています。

暮らしの保健室

専任の保健師が常駐して、学生と地域の住民が交流し、住民同士が暮らしや健康、医療、介護について相談することのできる場となっています。



市東南部の郊外にあたる緑区丘陵地帯に位置する鳴子団地
(昭和38年建設)



「暮らしの保健室」が入るコミュニティ・ヘルスケア教育研究センター
(平成26年5月開所)

4-2 ナゴ校(学生と社会のプラットフォーム)

- ナゴ校は、「学生」と「社会」(企業・地域・大学・行政)をつなぐプラットフォームとして、平成24年に名古屋市が開校しました。
- 名古屋市では、柔軟で発想力豊かな学生の活動が、地域の活性化や魅力づくりにつながるよう、ナゴ校の活動を応援しています。
- 平成28年1月現在、509人(34大学、5専門学校)が登録し活動しています。



主な事業

ナゴ校事業



主な主催事業(学生自らが企画・運営する事業)

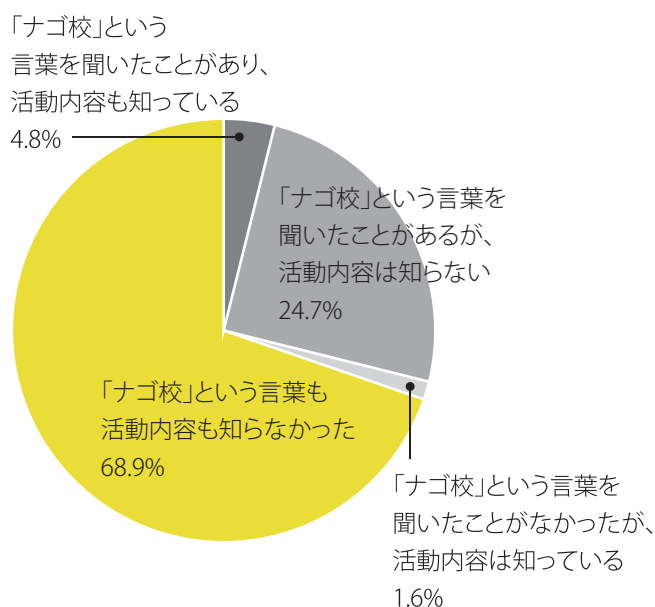
NAGOYA学生EXPO
ナゴ校TV
名古屋まつり学生企画
Candle Night Nagoya
名古屋グランパススタジアムイベント
未来WORK
てくてく名古屋
学生SPOT

協働・連携事業(企業・地域・大学・行政の事業に連携)

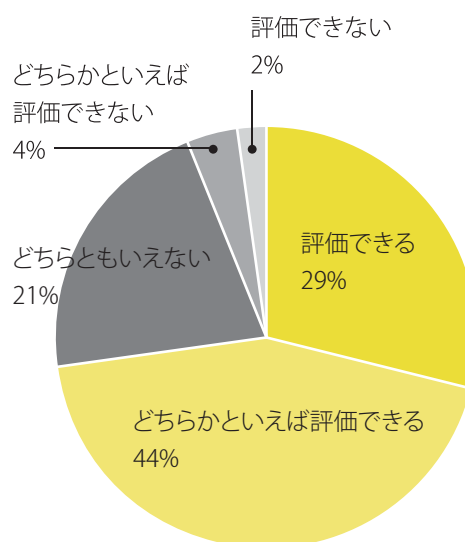
現状と課題（市民アンケートから）

- ナゴ校は、市民の認知度は低いものの、取り組みについてはおおむね評価されています。

ナゴ校あるいはナゴ校の活動を
知っていますか



ナゴ校の趣旨や取り組みについて
どのように感じますか



現状と課題（ナゴ校生アンケートから）

- ナゴ校の活動を楽しめた人がいる反面、当初抱いていたイメージと異なり、楽しめなかったとする人もいました。

ナゴ校の活動を楽しめた理由

- 他大学の人や社会人など、いろいろな人と知りあえた。
- 普通の学生生活ではできないさまざまな経験をすることができた。

ナゴ校の活動を楽しめなかった理由

- イメージと違った。
- 活動している人がごくわずかだった。
- マンネリ化している。
- 大人に使われている。
- 活動が漠然としている。
- 組織がしっかりしていない。

学生を取り巻く現状

データから見た現状

- 大学が集積し地元学生を中心に学生が集まり、学びやすい大学、学生が多く集まる。
地元の大学への進学率は低いものの、大学における地元学生率が高い。
- 求人倍率や正規雇用率が高く、働きやすい
全国に比べて求人倍率や正規雇用率が高い。
企業の海外進出がすすむ。
- 家賃が安く駅も近接しており、住みやすい
東京圏や関西圏に比べて家賃が低廉で、駅にも近接している。

学生から見た現状

- なごや以外の学生に知られていない。
- 適度に都会で生活しやすい。
- 学生が行きたくなる場所が少ない。
- 学生同士の結びつきが弱いように感じる。
- まちの魅力を発信できていない気がする。

社会潮流の変化 ～若者の減少と圏外流出～

若者の減少

- 少子化にともなう若者の減少
平成30年から18歳人口減少、平成40年には現在より1万人減少。

学生の圏外流出

- 東京圏・関西圏への学生流出
都市間競争の激化により、学生流出が増加する恐れがある。

大学や学生の取り組み

大学における地域連携の取り組み

- 社会貢献に取り組む大学が増加
行政と地域連携にかかる協定を締結する大学が増加している。

ナゴ校(学生と社会のプラットフォーム)

- 趣旨は評価されるも認知不足
7割が趣旨を評価しているものの、全く知らない市民も7割いる。

現状や社会潮流の変化などをふまえ、学生タウンなごやの推進にかかる課題を下記のとおり整理します。

(1) まちの特性を活かした、人づくりが必要です

- 少子化・高齢化、グローバル化の進展により、地域や企業が求める人材は、高度化、多様化が進み、その育成は急務です。
- なごやには、特色ある中小企業から世界で活躍するグローバル企業まで多彩な企業が集積するとともに、さまざまな地縁団体が活動する地域もあります。
- このまちの特性を活かし、まちの活力を高めるためにも、大学、地域、企業、行政の連携による、これからのなごやを支える人づくりが必要です。

(2) 学生の活力を活かした、まちづくりが必要です

- なごやでは、各大学が行政と協定を締結するなど、地域の課題解決や魅力向上に向けた取り組みを深めています。学生と社会をつなぐプラットフォームとして設立されたナゴ校も、学生EXPOなど、まちの魅力を高めるために活動しています。
- しかし、ナゴ校の取り組みは、市民の評価は高いものの十分に認知されておらず、大学の取り組みについても、大学と地域との個々のつながりにとどまり、学生が多く大学が集積しているという強みを十分に活かしていません。
- なごやにおけるまちの魅力をより高めるためにも、大学、地域、企業、行政が連携し、学生の活力を活かしたまちづくりが必要です。

(3) 学生から愛されるまちとしての、ブランドづくりが必要です

- なごやは、東京圏や関西圏同様、都市としての利便性が高い一方、東京圏や関西圏よりも家賃が安いなど住みやすく、また、多様な大学が集積し、学びたいことが学べる環境も整っています。
- 一方、学生から「なごや以外の学生に知られていない」といった声が聞かれるように、大学や学生が集まり、かつ住みやすく学びやすいといったまちの魅力が、全国に知られていません。
- 全国から学生が集まるよう、学生にとっての魅力を高め、発信し、学生から愛されるまちとしてのブランドづくりが必要です。

基本目標

学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや

- 学生が大学、地域、企業すべてをキャンパスとして学び育つようにします。
- 学生がまち全体で、いきいきと活動できる(躍動する)ようにします。
- 学生がなごやの魅力に惹かれ、全国からなごやに集まるようにします。

考え方



取り組みの方向性

基本目標の実現のため、取り組みの方向性を下記のとおり定めます。

(1) まち全体で学生を^{はぐく}みます

- なごやにおける大学、地域、企業すべてをキャンパスとして自らの夢を実現できる環境を整え、ローカルな視点とグローバルな視点をあわせ持つ人材を育成します。
- また、なごやの特性であるものづくり文化をより高めるため、大学、企業、行政が連携し、人材の育成につとめます。

(2) 学生の「おもしろい」を応援します

- 学生の活力がまちの魅力として還流するように、大学における地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組みや、学生の自由で自発的な活動を応援します。
- 学生の活動が実現し、持続的に展開されるよう、大学、地域、企業、行政との連携が円滑にすすむような仕組みを設けます。
- また、取り組み事例の共有化や、学生が集えるような場の設置につとめます。

(3) 学生にとっての魅力を高め広く発信します

- 地元はもとより、全国の人々からなごやで学びたい、学ばせたいと思われるよう、学生にとっての魅力を掘り起こすとともに、なごやの魅力を広く発信します。
- 住みやすく、働きやすく、学びやすい。そのようななごやの魅力を発信し続けることで、学生から愛されるまちとしてブランド化につとめます。

成果指標

ビジョンの推進状況を示す「ものさし」として、成果指標を設定します。

指標	現状値 (26年度)	目標値 (31年度)	目標値 (40年度)
市内にある大学の学生のうち 出身が東海3県外である割合	15%	19%	30%

基本目標「学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや」の実現に向け、方向性ごとに、今後5年間における取り組みを整理しました。

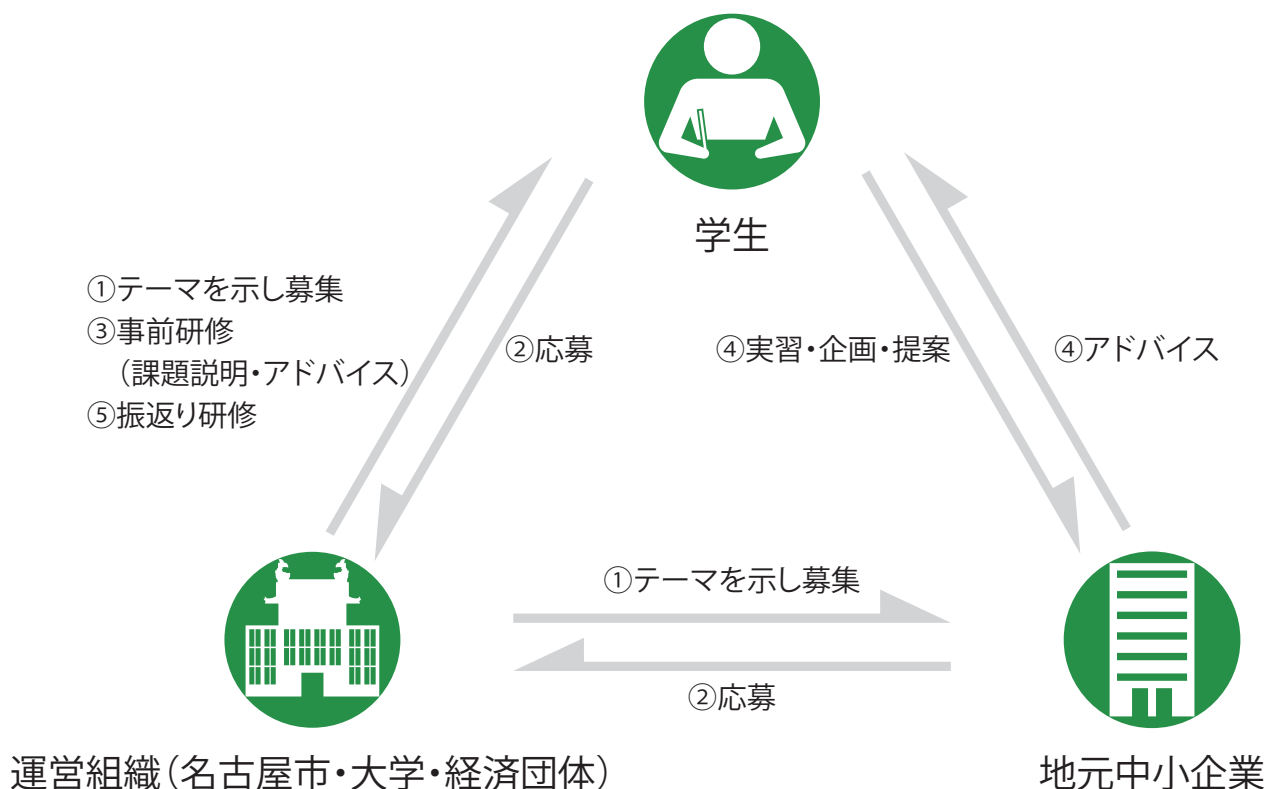
方向性1 まち全体で学生を^{はぐく}みます

企業におけるインターンシップや、地域におけるボランティア活動を通して、学生を^{はぐく}みます。

取り組み1 実践型インターンシップなどを通し、なごやを担う人材の育成につとめます

- 地元中小企業が実際に抱える課題の解決に向けたプランを学生が企業とともに考え企画・提案するなど、学生が目的意識をもって取り組めるような実践型インターンシップを、大学や経済団体と連携し実施します。
- 経済団体などと連携の上、グローバルに活躍している企業や地域で活躍している企業が講師を務めるキャリアセミナーの充実をはかります。

実践型インターンシップ(イメージ図)



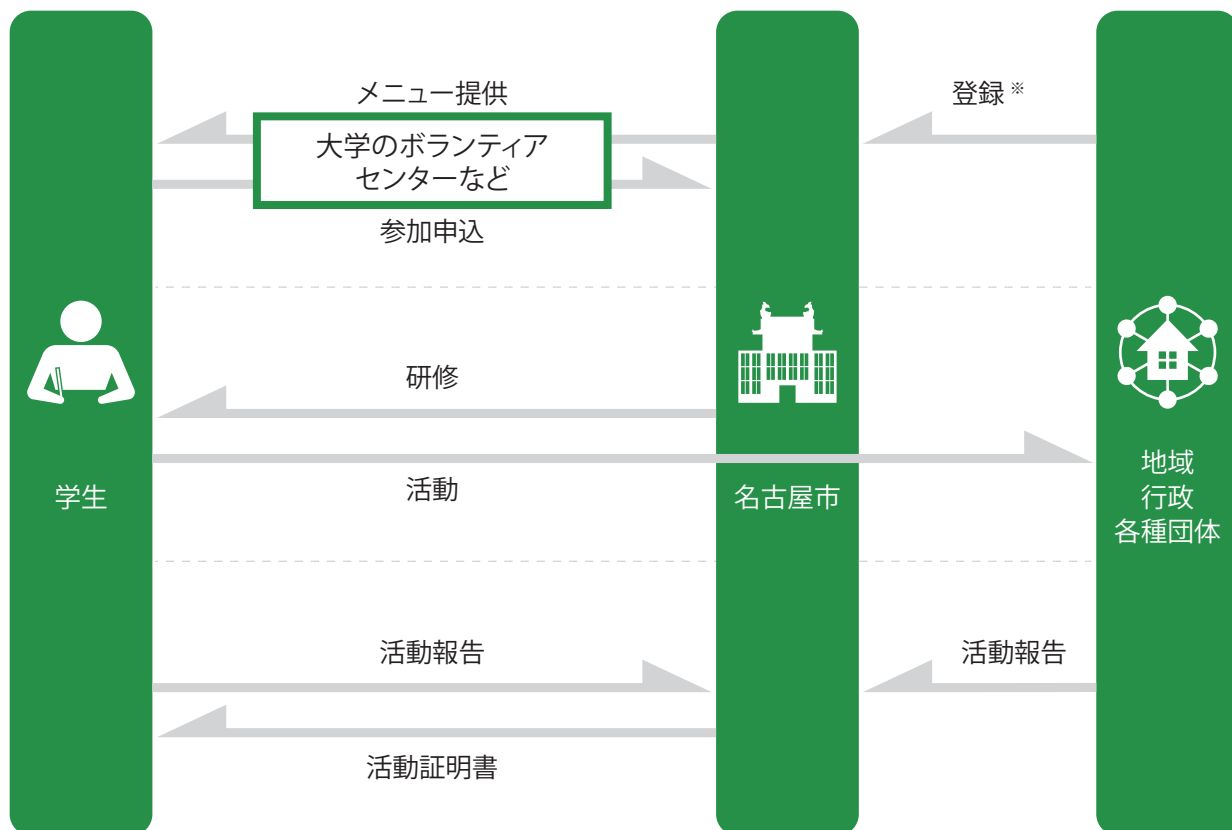
取り組み2 ボランティア活動を通し、地域を担う人材の育成につとめます

- ボランティア活動に関する情報は、ボランティアを必要とする団体から登録を受け付け、興味のある学生に幅広く提供します。
- 活動を通してより多くのことを学びとることができるよう、事前オリエンテーションや定期的な振り返りの場などを設けます。

取り組み3 ボランティア活動が社会的に評価される仕組みをつくります

- 中長期にわたるボランティア活動に従事した学生に対して活動証明書を発行するなど、熱心に活動に取り組んだ学生が社会的に評価される仕組みを構築します。
- 活動証明書の発行などを通して、活動^{かか}に関わる学生の意欲を高めるとともに、活動^{かか}に関わっていない学生に動機付けを与えます。

取り組み2,3 (イメージ図)



※清掃活動や防犯活動、子育て支援、高齢者などへの生活支援など幅広く登録を促す

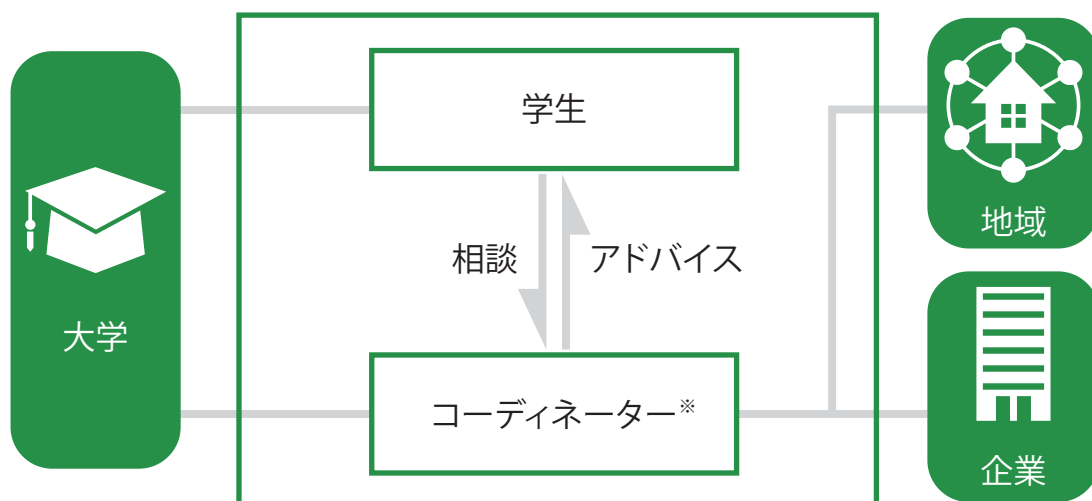
方向性 2 学生の「おもしろい」を応援します

学生活動を応援するため、活動拠点や活動を支援する仕組みを設けます。

取り組み 1 学生の共同活動拠点（たまり場）を設けるとともに、学生（大学）と、地域や企業をつなぐ仕組みをつくります

- 学生が自由に利用でき、学生が集える場（たまり場）を設けます。
- たまり場は、学生が活動の企画を練ったり準備をしたりと、学生の活動の拠点として、また、留学生や異なる大学の学生同士が出会い、語りあえるような交流の拠点として整備します。
- 大学、学生、地域、企業におけるさまざまな情報がコーディネーターのもとに一元的に集まり、コーディネーターを基点に互いの情報を交換できるようにします。

たまり場（イメージ図）

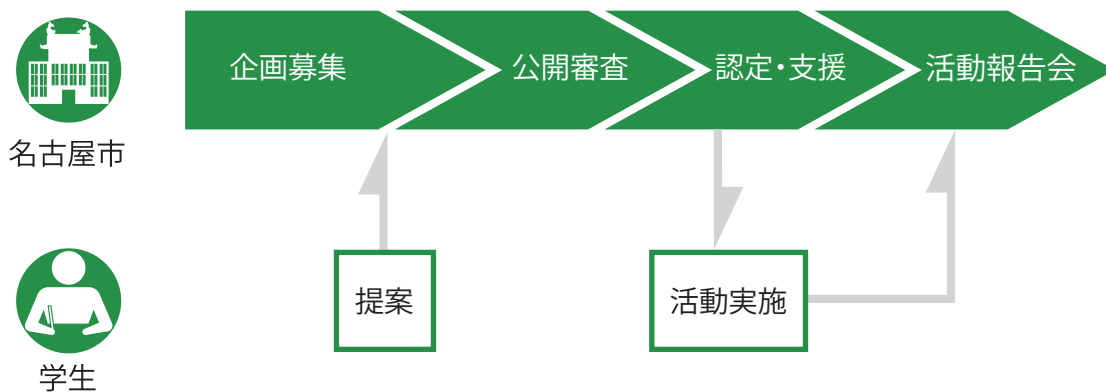


※ 学生や大学のシーズと地域や企業のニーズをマッチング

取り組み2 学生活動を支援する仕組みを設けます

- 活動している学生にとって励みとなり、また、これから活動しようとしている学生にとっては参考となるよう、地域に貢献している学生活動を表彰し、発表します。
- 学生企画コンテストを実施し、地域の課題解決などに資する企画を認定・支援するなど、学生の活動意欲を引き出します。
- 活動報告会などを通して、これら学生の相互交流も促します。

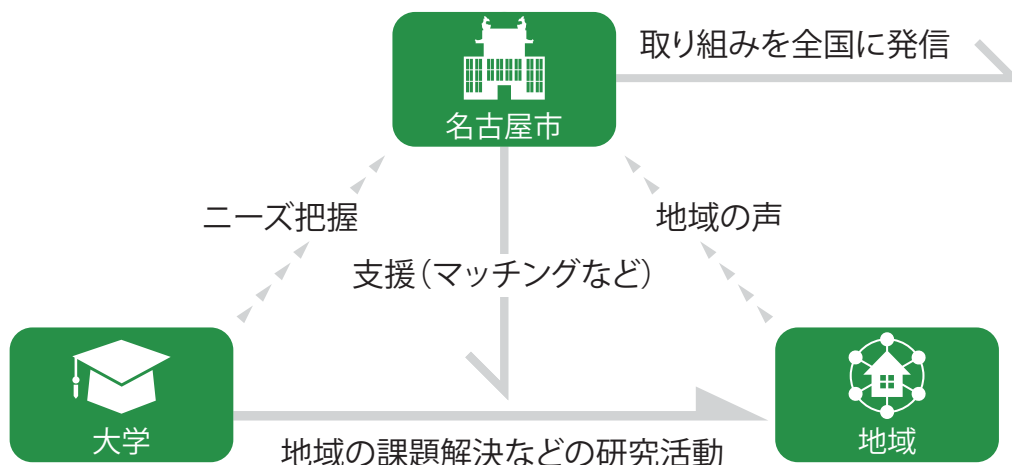
学生企画コンテスト(イメージ図)



取り組み3 大学の地域における研究活動を推進します

- 大学の研究室(ゼミ)などにおける地域の課題解決や魅力向上に関する取り組みなど、まちなかをフィールドとした研究活動を支援します。
- 大学の研究活動を通して、学生が大学教員などの指導のもと、より専門性を活かし、いきいきと活動が行えるようにします。

研究活動支援(イメージ図)



方向性3 学生にとっての魅力を高め広く発信します

学生から学びたい、働きたいと思われるよう、なごやの魅力を発信します。

取り組み1 高校生からなごやで学びたいと思われるよう情報発信します

- 高校生が、学びたいテーマや教授に会えるよう、大学における高校生向け公開講座などの情報発信につとめます。
- なごやに進学する高校生が比較的多い地方で、合同で大学説明会を開くよう大学に働きかけるなど、大学の情報発信につとめます。
- 高校生やその保護者になごやの魅力をより深く知ってもらうため、大学やまちの魅力、生活する上で役立つ情報を取りまとめた冊子などを作成します。
- なごやの魅力をより感じてもらえるよう、高校生にも学生活動への参加を促します。

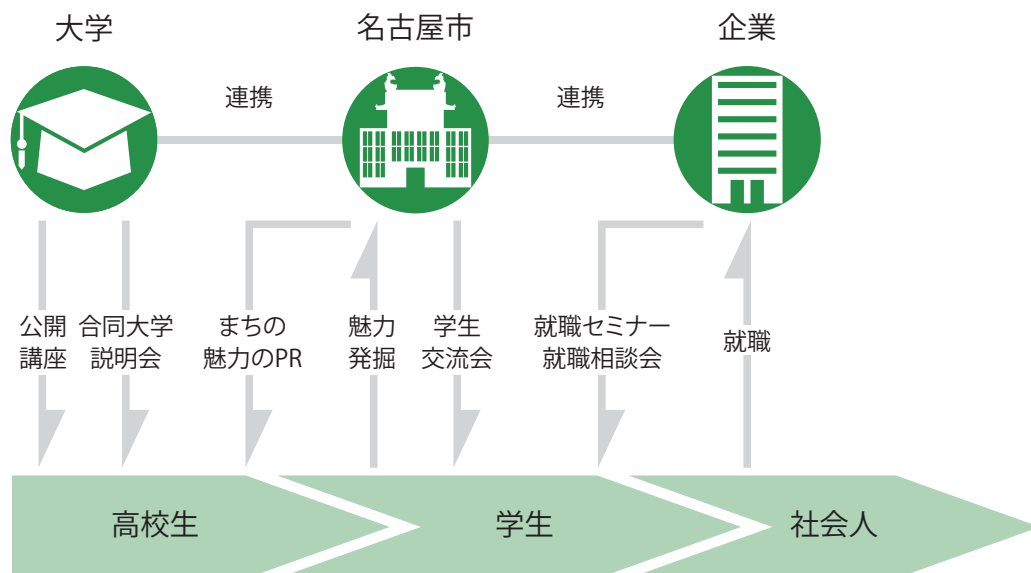
取り組み2 なごやが好きな学生を増やすとともに学生の輪を広げます

- まちの隠れた魅力や見落としがちな魅力を学生視点で掘り起し、映像や写真などを用いて発信することで、なごやのことが好きになる学生を増やします。
- 留学生との交流を通して、留学生から見たまちの魅力を発信します。
- 学生同士の情報交換を促す交流会を開催するなど、学生の輪を広げます。

取り組み3 学生が希望する働く場が見つかるようにします

- 学生がやりたい仕事を見つけられるよう、大学や企業と連携して就職セミナーや就職相談会を実施するなど、就職活動支援の充実をはかります。
- Uターン就職を希望する地方出身（なごや以外の出身）の学生向けに、地方の行政機関と連携し、地方ごとの企業説明会を開催するなど、地方へのUターン就職を支援します。

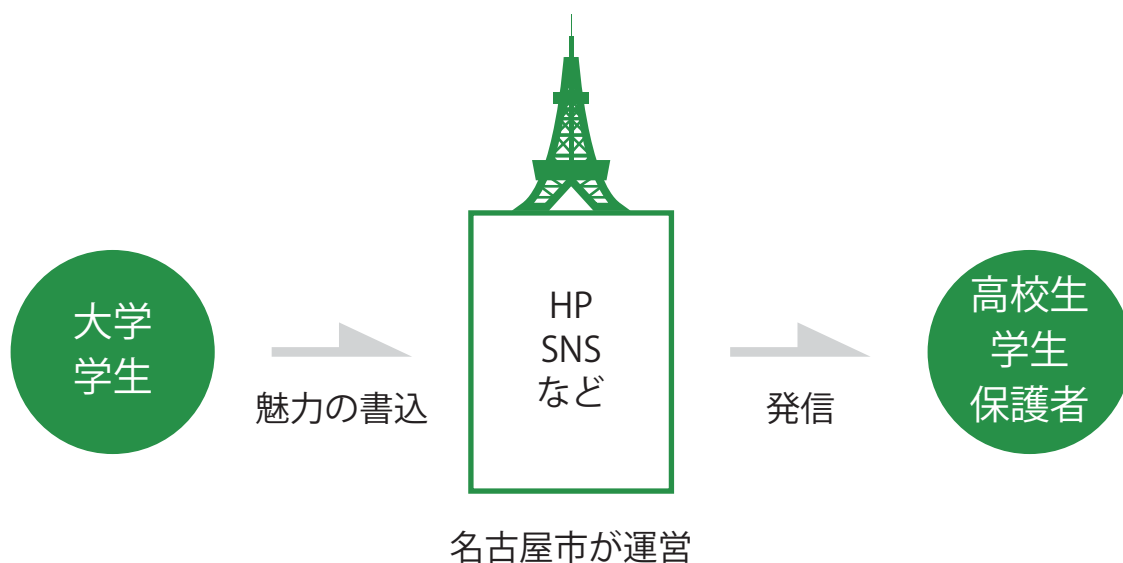
取り組み 1 ～ 3 (イメージ図)



取り組み 4 大学やまちの魅力を、多様なメディアを活用して全国に発信します

- なごやにおける大学やまちの魅力を、全国の高校生や学生などに発信します。
- HP、SNS (ツイッター・フェイスブックなど)、口コミ、マスコミなど、メディアミックスを意識した発信につとめます。

魅力発信(イメージ図)

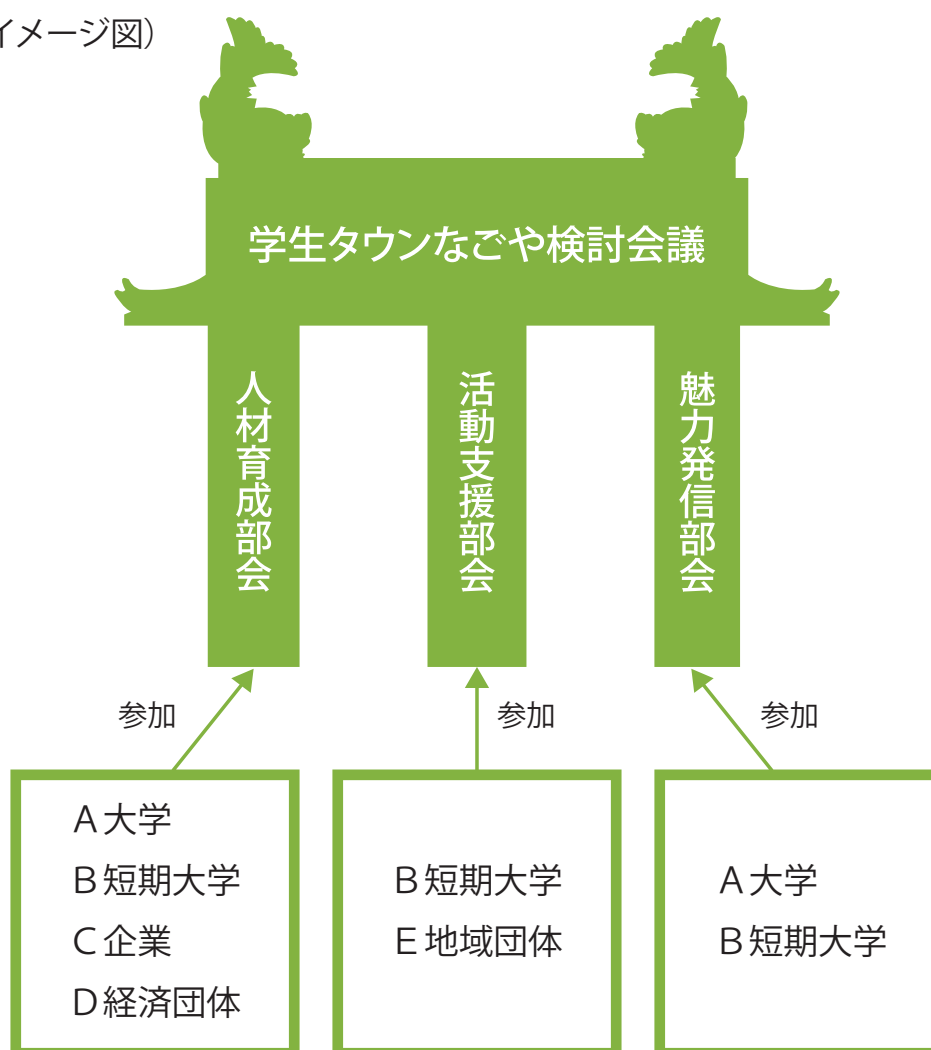


ビジョンの実現をはかるため、大学、地域、企業とともに施策のすすめ方について話しあう「学生タウンなごや検討会議」や、推進の枠組みとして「ナゴ校プラス」を設けます。

推進体制 1 学生タウンなごや検討会議（仮称）

- 大学や経済団体などと共同して学生タウンなごや検討会議を設けます。
- 検討会議には、取り組みの方向性ごとの部会を設け、検討会議のメンバーやその他関係する地域や企業などが集まり、運営方法や推進体制について協議、検討が行えるようにします。

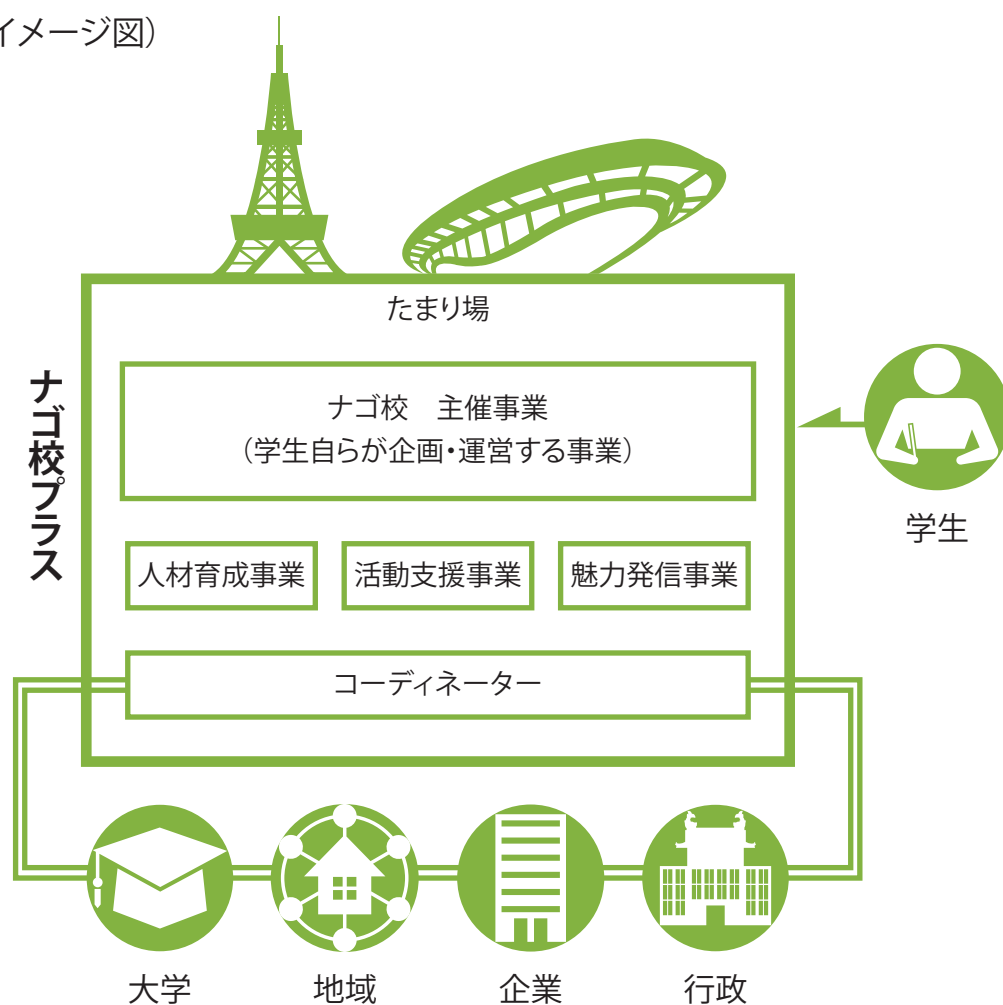
（イメージ図）



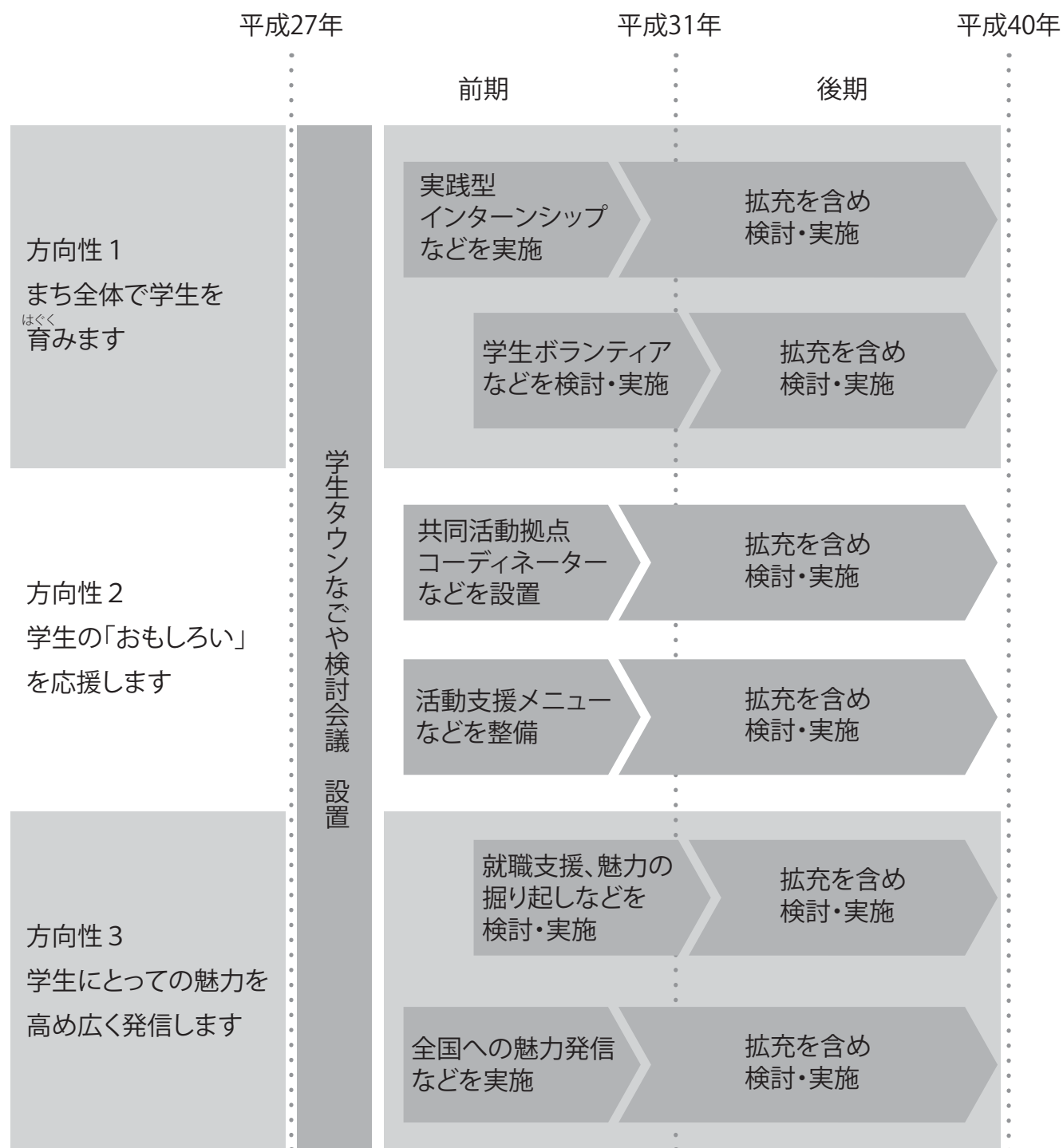
推進体制 2 ナゴ校プラス(仮称)

- ナゴ校に学生の共同活動拠点(たまり場)、コーディネーター、学生が利用できる人材育成メニュー、活動支援メニュー、魅力発信メニューを新たに設け、ナゴ校におけるプラットフォーム機能(学生と社会をつなぐ)を高めます。
- この新しいナゴ校(ナゴ校プラス)を機軸に、学生タウンなごやの推進をはかります。

(イメージ図)



スケジュール



資料編

- 1 学生タウンなごや推進ビジョン有識者懇談会
- 2 学生タウンなごや推進ビジョンシンポジウム
- 3 パブリックコメント
- 4 学生グループヒアリング
- 5 学生インターネットアンケート

【参考資料】 学生インターネットアンケート結果について

1 学生タウンなごや推進ビジョン有識者懇談会

学生タウンなごや推進ビジョンの策定にあたって、学識経験者などの専門的知見をふまえた意見を聴取するため、有識者懇談会を開催しました。

学生タウンなごや推進ビジョン有識者懇談会委員名簿

氏名	職業等(平成27年6月16日時点)
飯盛 義徳	慶應義塾大学総合政策学部教授
江口 忍	名古屋学院大学現代社会学部教授
滝 紀子	学校法人河合塾中部本部上席調査役
夏目 達也	名古屋大学高等教育研究センター教授
山本 奈央	名古屋市立大学大学院経済学研究科講師

(敬称略・50音順)

学生タウンなごや推進ビジョン有識者懇談会の開催経過

会 議	開催日	内 容
第1回懇談会	平成27年 6月16日	● 学生タウンなごや推進ビジョン有識者懇談会について ● 名古屋圏の学生を取り巻く現状と課題について
第2回懇談会	平成27年 8月26日	● 学生タウンなごや推進ビジョン骨子案について
第3回懇談会	平成27年 11月17日	● 学生タウンなごや推進ビジョン案について

2 学生タウンなごや推進ビジョンシンポジウム

学生タウンなごや推進ビジョンを紹介するとともに、有識者などから意見・提案を聴取する場として、シンポジウムを開催しました。

- 開催日・場所

平成28年1月28日(木) 名古屋市芸術創造センター

- 参加人数

207人

- 登壇者(敬称略)

基調講演

「学生はまちを元気にする! —『域学連携』の可能性—」

飯盛 義徳(慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部教授)

パネルディスカッション

「学生タウンなごやの実現に向けて」

井澤 知旦 (名古屋学院大学現代社会学部教授)

飯盛 義徳 (慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部教授)

鈴木 賢一 (名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授)

林 あゆみ (NAGOYA学生キャンパス「ナゴ校」副代表)

原田 さとみ (フェアトレード名古屋ネットワークFTNN代表)

本田 剛文 (BOYS AND MEN タレント)

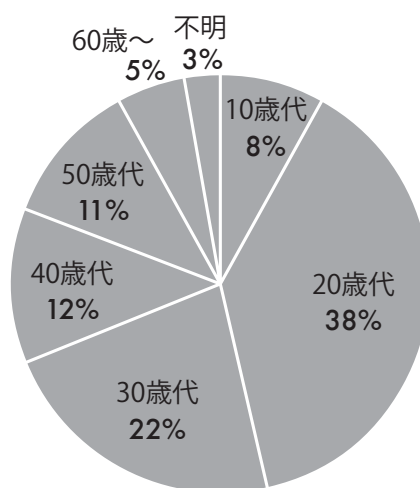


3 パブリックコメント

学生タウンなごや推進ビジョン(案)について、平成27年12月25日から平成28年1月29日にかけて、ビジョン案および概要版の冊子を区役所情報コーナーなどに配架し、郵送、ファクシミリ、電子メールなどにより、市民意見を募集しました。

意見募集の概要

提出者数	73人
件 数	94件



市民意見の内訳

項 目	意見数
学生タウンなごや推進ビジョンについて	23件
基本目標と方向性	41件
方向性 1 まち全体で学生を ^{はぐく} みます	8件
方向性 2 学生の「おもしろい」を応援します	14件
方向性 3 学生にとっての魅力を高め広く発信します	19件
推進体制について	17件
その他	13件
合 計	94件

4 学生グループヒアリング

学生タウンなごや推進ビジョンの策定にあたって、学生から見たなごやの魅力を聴取するため、グループインタビュー形式にてヒアリングを実施しました。

- 開催日・参加人数
 - 第1回 平成27年7月 4日(土)
 - 第2回 平成27年7月 8日(水)
 - 第3回 平成27年7月 9日(木)
 - 第4回 平成27年7月15日(水)
- 調査対象
名古屋市内の大学に通う大学生
- 調査方法
グループインタビュー
- 参加者
27人

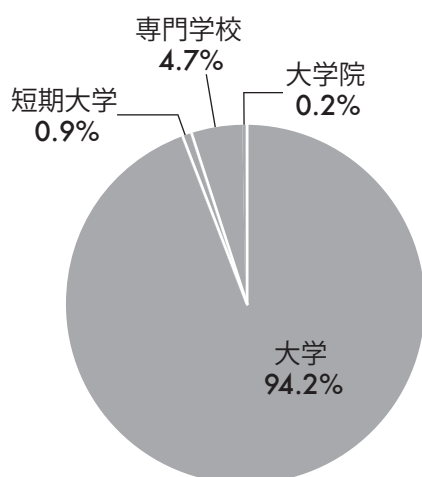
5 学生インターネットアンケート

学生タウンなごや推進ビジョンの策定にあたって、学生が普段感じているなごやのまちの魅力や大学選びの実態などを幅広く聴取するため、ナゴ校生が質問項目を作成し、インターネットを通してアンケート調査を実施しました。

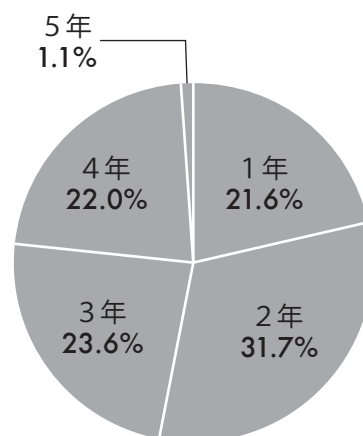
- 調査期間
平成27年9月11日(金)～平成27年10月18日(日)
- 調査対象
大学、短期大学、専門学校、大学院で学ぶ全国の学生
- 調査方法
インターネットを通じたアンケート
- 回収数
823人(男性335人、女性488人)

1 調査対象の構成

(1) 学校の種別



(2) 学年

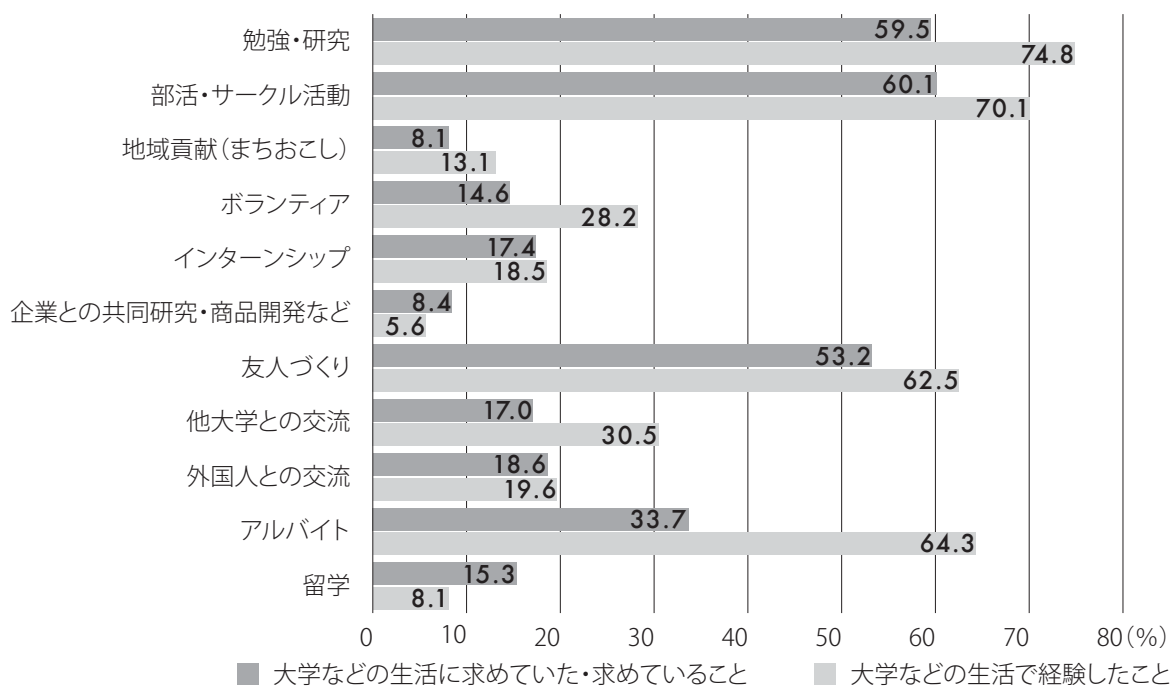


(3) 住んでいる場所、通っている学校の所在地、出身高校の所在地

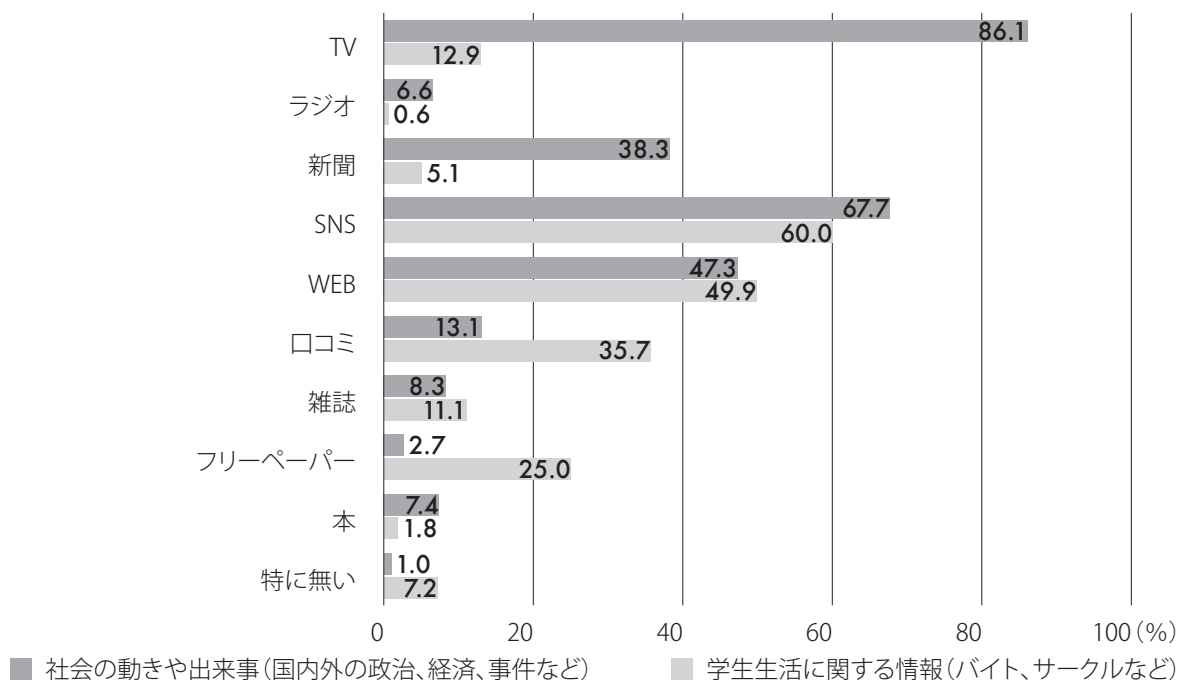
	住んでいる場所	通っている学校の所在地	出身高校の所在地
北海道・東北地方	4	2	7
埼玉県	3	1	1
千葉県	1	0	1
東京都	21	27	17
神奈川県	3	0	2
上記以外の関東地方	1	0	2
新潟県	0	0	2
富山県	1	1	5
石川県	0	1	3
福井県	2	2	8
長野県	2	2	3
岐阜県	62	13	71
静岡県	8	1	38
愛知県(名古屋市内)	258	550	235
愛知県(名古屋市外)	358	157	322
三重県	47	12	49
京都府	1	2	1
大阪府	42	46	12
兵庫県	5	3	9
上記以外の関西地方	3	1	9
中国・四国地方	0	0	15
九州地方	1	2	11

2 調査結果

(1) 大学などの生活において、何を求めている・求めていますか。また、何を体験しましたか。
(複数回答可)

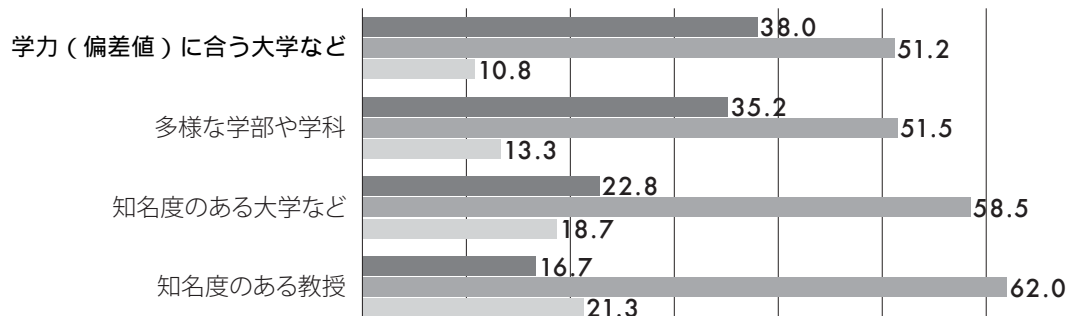


(2) 社会の動きや出来事、学生生活に関する情報をどこから入手しますか。
(複数回答可)

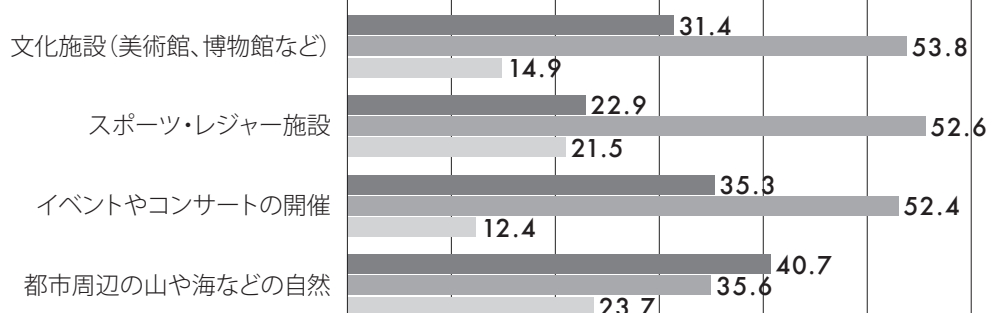


(3)以下の項目について、なごやにあると思うか、また、東京圏・関西圏と比べてすぐれていると思うか、劣っていると思うかお答えください。

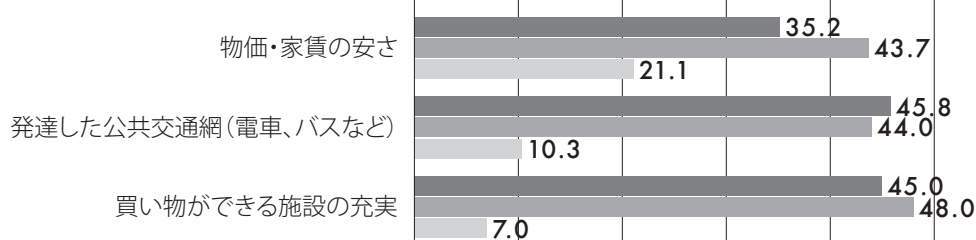
学びについて



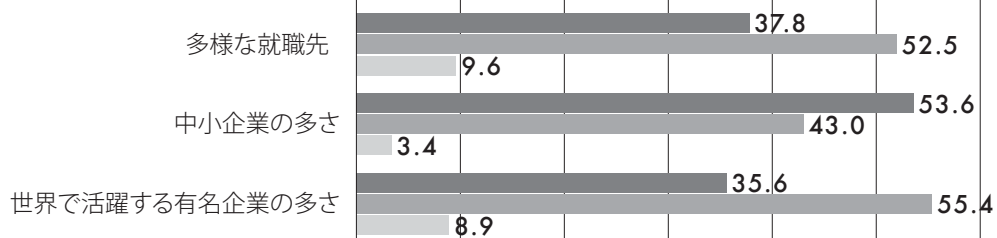
遊びについて



生活について

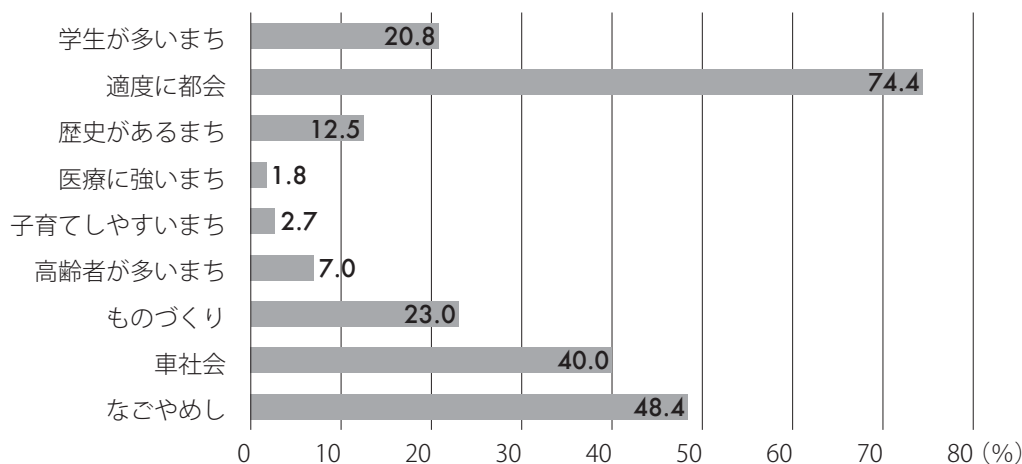


就職について



■ なごや にはあると思うし、東京圏・関西圏に比べてすぐれていると思う
 ■ なごや にはあると思うが、東京圏・関西圏と比べて劣っていると思う
 ■ なごや にはないと思う

(4) なごやといえばどのようなイメージですか。(複数回答可)



(5) なごやのどのようなところが改善されればよいと思いますか。(自由記述)

(主な意見)

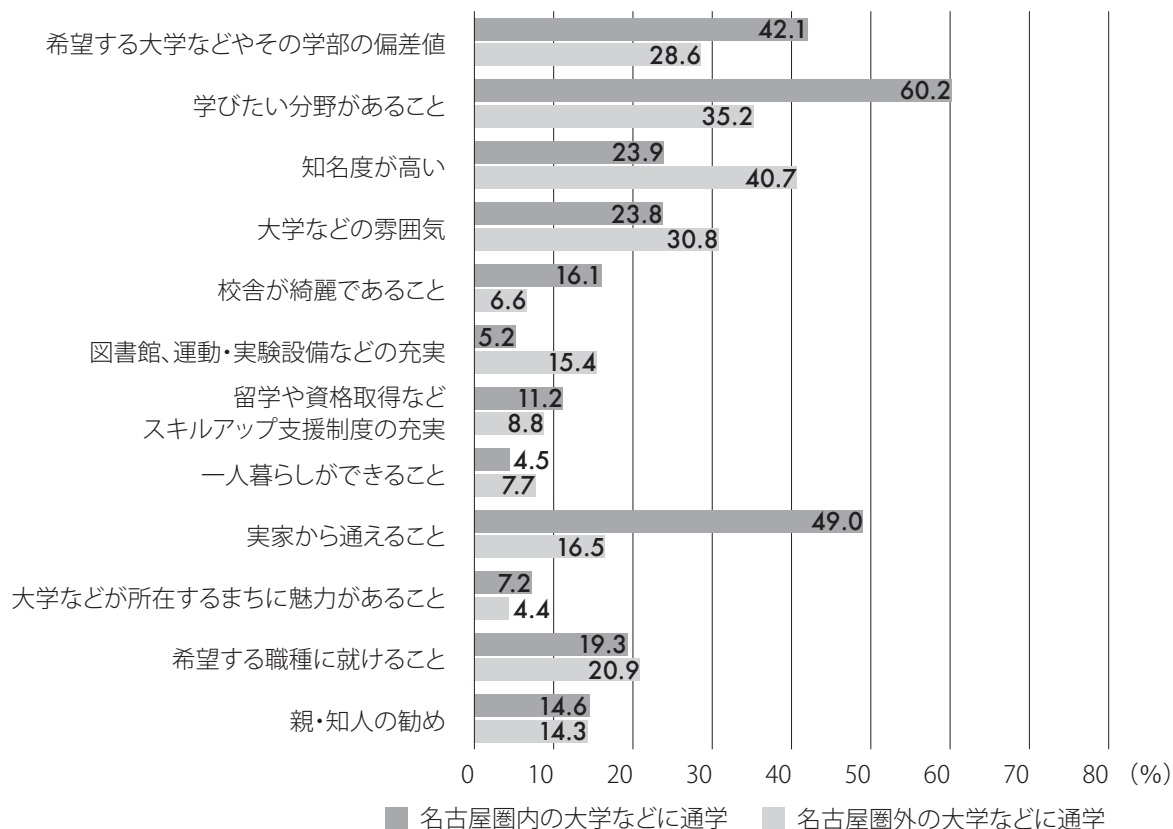
ア. 学びの場所としてのなごや

- ・ 学生同士の結びつきが薄いように感じる。似たようなジャンルで活動している学生同士は自然と集まってつながることはできるが、それ以上に広げるのはなかなか難しく、もっと学生が自由に利用できて多方面で活動している学生同士がつながる場づくりがされたい。
- ・ 学生の作品づくりができるスペースがほしい。
- ・ 日本全国への大学の知名度。

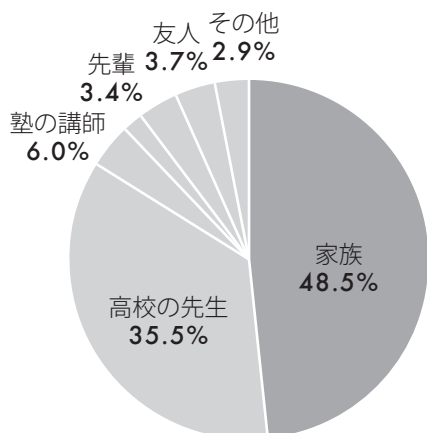
イ. 住む場所としてのなごや

- ・ 名古屋には観光や食べ物、たくさんいいものが揃っているのに、今ひとつそれらの魅力、情報が発信できていない気がするので、全国、全世界にどんどん発信していった方がいいかなと思う。
- ・ 名古屋にはよくも悪くも特徴がない。特に観光地としては、名古屋城などはあるものの、他の都市に比べるとやや魅力にかけているように思われる。
- ・ 大きな観光名所がないところ。
- ・ 大型テーマパーク(ディズニー、USJなど)のような、長期的に観光客を誘致できる施設を充実させるとよい。
- ・ 観光をもっと楽しめるまちにしてほしい。特に外国人が興味を持てるような、日本を感じられるようなまちにしてほしい。
- ・ 運転マナーを改善してほしい。

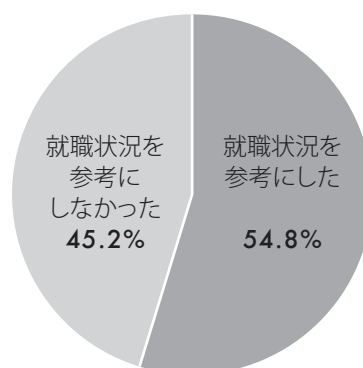
(6) 大学などを選ぶ際に重要視したポイントを教えてください。(複数回答可)



(7) 大学などを選ぶ際、自分以外の
だれ 誰の意見をもっとも参考にしましたか。



(8) 大学などの就職状況(就職率、就職先など)を参考にした上で大学などを選びましたか。



(9) もしあるのであれば、大学などを選ぶ際に情報としてどのようなものがほしかったですか。

(自由記述)

(主な意見)

ア. 大学に関する情報

- ・ 大学生の生の声が聞ける高校生と大学生との交流の場みたいなものがあるとよかった。
- ・ 大学生のOBの人達が高校に来てどんな感じが教えてほしい。
- ・ 館内や授業風景など大学紹介映像。
- ・ 体験授業をもっと豊富にしてほしかった。
- ・ 授業やカリキュラムについて、他大学との違いとして、どのようなものを行っているのか。
- ・ その大学生にしかできない、もしくはその大学生だからこそできるイベントなどの情報。
- ・ 授業以外に、どのようなゼミ活動や課外活動があるのか。
- ・ 部活・サークルなどの雰囲気わかるもの。
- ・ キーワードを入れるとそれに見合った大学がリストアップされるようなサイト。

イ. 生活に関する情報

- ・ 学生の1日または1週間のスケジュール。
- ・ 立地や交通アクセス、周辺の飲食店の情報など、実際に現地で一人暮らしをする上で役立つ有益なもの。
- ・ 交通手段や大学周辺の家賃。

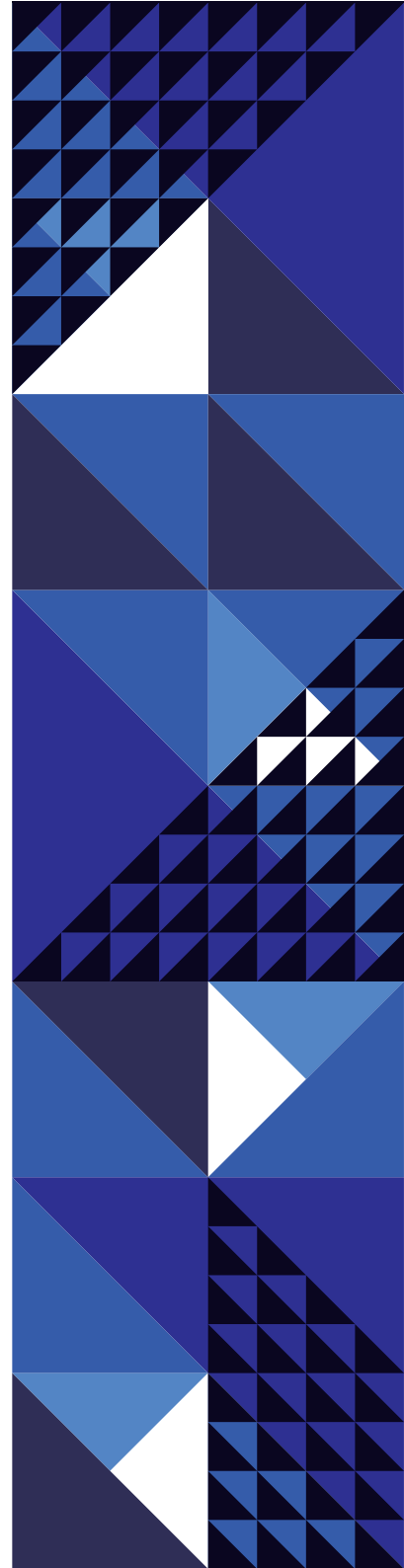
ウ. 就職に関する情報

- ・ 就職に関するリアルな情報。
- ・ 就活のサポートがどれだけ手厚いか。
- ・ その大学を卒業した後の学生の就職先と体験談。
- ・ 就職状況や取得できる免許のわかるもの。
- ・ 学内の資格取得に向けた研究室などの情報。

アンケート作成などに携わったメンバー

愛知大学	4年	浮亀 貴行	南山大学	3年	榊原 万紀子
名古屋女子大学	4年	林 あゆみ	中部楽器技術専門学校	2年	柴田 未来
名城大学	4年	村瀬 慶	椋山女学園大学	1年	水谷 友梨香
愛知学院大学	3年	吉田 力良	南山大学	1年	山内 美有
岐阜大学	3年	小西 翼			

STUDENT TOWN NAGOYA PROMOTION VISION



学生タウンなごや推進ビジョン

発行・編集	名古屋市総務局企画部大学政策室 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL 052-972-2217 FAX 052-972-4418
発行年月	平成28年3月
デザイン・制作	名古屋市立大学芸術工学部森研究室

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。